

# 松山市埋蔵文化財調査年報 11

平成10年度

1999

松山市教育委員会

(財)松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター

# 松山市埋蔵文化財調査年報 11

平成10年度

1999

松山市教育委員会  
財団法人松山市生涯学習振興財団  
埋蔵文化財センター



巻頭図版1 樽味四反地遺跡6次調査地 大型掘立柱建物址 弥生時代終末～古墳時代初頭



巻頭図版 2 大湖遺跡 3 次調査地 完掘状況 古墳時代初頭～中世



巻頭図版 3 久米高畑遺跡41次調査地 1区完掘状況 古代

## 序

松山市には、数多くの貴重な埋蔵文化財があります。財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターでは、開発事業によって失われようとする遺跡について、事前に発掘調査を実施し、保存、又は記録保存に努めています。

本書は、平成10年度に埋蔵文化財センターが主体となり実施した発掘調査の概要報告と、松山市考古館が同年度に行った展示会・講演会などの教育普及活動の概要をまとめたものです。

本年度の発掘調査では、古くは縄文時代晩期から新しくは中近世に至る数多くの遺構と遺物を発見しています。特に、樽味四反地遺跡6次調査地では、弥生時代終末～古墳時代初頭に廃絶された大型掘立柱建物址が見つかっています。大型掘立柱建物址には溝と柵列が伴うことから、有力者の館である「首長居館」と考えられます。こうした検出状況は、全国的にも類例が少なく、中・四国地域では初例であり、注目されています。

また、大測遺跡3次調査では、古墳時代前期の竪穴住居址と土坑や自然流路を検出し、和気・堀江地区における当時の集落の立地や構造を知る上で貴重な資料を発見しています。その他の遺跡からも、各時期の社会的背景を知る上で重要な資料を得ることができました。

このような貴重な資料が得られましたのも、関係各位の埋蔵文化財に対するご理解とご協力のたまものと感謝し、厚くお礼申し上げます。今後とも、なお一層のご理解と協力をお願い申し上げます。

本書が、松山市民をはじめ、ひとりでも多くの方々に埋蔵文化財に対する知識の向上と調査研究のための資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

平成11年9月30日

財団法人松山市生涯学習振興財団

理事長 中村時広

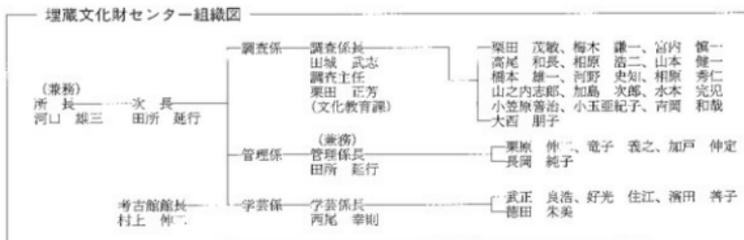
## 例 言

1. 本書は、松山市教育委員会と財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが、平成10年4月1日から平成11年3月31日までに実施した発掘調査の概要と、松山市考古館が行った教育普及事業等をまとめた年次報告書である。
2. 確認調査と本格調査については、本書末尾の一覧表と付図にまとめた。
3. 各調査の報告は、調査担当者が執筆した。なお、編集は田城武志・加島次郎がおこなった。
4. 写真は、遺物と一部を除く発掘調査の遺構写真を大西朋子が、その他は各調査員が撮影した。
5. 調査地位置図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図を使用した。
6. 遺構のうち、表示記号で示したものは、以下のとおりである。  
 SA：柵列、SB：竪穴式住居址、掘立：掘立柱建物址、SD：溝、SK：土坑  
 SE：井戸、SR：自然流路、SP：柱穴、SX：その他の遺構
7. 各図の方位は真北を基本とする。磁北の場合は、方位の上に「磁北」を記入した。
8. 刊行組織は以下のとおりである。

刊行主体（平成11年9月30日現在）

松山市教育委員会	教 育 長	池田 尚郷
事 務 局	局 長	岡上 和敬
	次 長	森脇 将
	次 長	赤星 忠男
文化教育課	課 長	松平 泰定
財団法人松山市生涯学習振興財団		
	理 事 長	中村 時広
	事 務 局 長	二宮 正昌
	事務局次長	河口 雄三

9. 製版 カラー写真・写真図版—175線  
 印刷 オフセット印刷  
 用紙 カラー写真・本文 マットコート 135  
 製本 アジロ綴り



10. 整理作業の協力者は、次のとおりである。

池田學・水口あをい・加島なおみ・大森一成・真木深・田丸竜馬・波多野恭久・山下満佐子・平岡直典・大西陽子・口之西美春・西本三枝・伊藤みわこ・渡辺いずみ・山邊進也・堀内哲也・阿部研三・萩野ちよみ・吉井信枝・渡部英子・青野茂子・西川千秋・徳田弘子・松本美代子・森田利恵・越智令子・黒田竜弥・中村紫・田崎真理・大野裕子・八木幸徳・石丸由利子・松下郁子・福岡志保美・渡辺佐代枝・猪野美喜子・岡本邦栄・石井美鈴・金子郁代・仙波千秋・仙波ミリ子・名本敏行・神野元・末光美恵・佐々木香・橋丈太郎・西村直人・岡村郁美・丹生谷道代・横田知子・矢野久子・多知川富美子・二神千春・高尾久子・玉井順子・福島利恵・木下奈緒美・岩本美保・村上真由美・白石治徳・真木雅子

11. ご指導・ご協力をいただいた先生方は、次の通りである。(敬称略・順不同)

岸本直文(文化庁記念物課)／小林克(文化庁記念物課)／小池仲彦(文化庁記念物課)／寺沢薫(奈良県立橿原考古学研究所)／奥田尚(奈良県立橿原考古学研究所)／上原真人(京都大学大学院)／山中敏史(奈良国立文化財研究所)／松井章(奈良国立文化財研究所)／松本修自(東京国立文化財研究所)／阿部義平(国立歴史民族博物館)／千賀久(奈良県立橿原考古学研究所)／下條信行(愛媛大学)／松原弘宣(愛媛大学)／田崎博之(愛媛大学)／村上恭通(愛媛大学)／平井幸弘(愛媛大学)／川岡勉(愛媛大学)／吉田広(愛媛大学)／三吉秀充(愛媛大学)／富田尚夫(愛媛県歴史文化博物館)／石野博信(徳島文理大学・二上山博物館)／内田俊秀(京都造形芸術大学)／前園美知雄(奈良芸術短期大学)／渡辺智恵美(元興寺文化財研究所)／石川恵美(元興寺文化財研究所)／井上美智子(元興寺文化財研究所)／溝口孝司(九州大学)／萩原儀征(桜井市埋蔵文化財センター)／森岡秀人(芦屋市教育委員会)／渡部明夫(香川県歴史博物館)／大山正風(愛媛県埋蔵文化財調査センター)／岡田敏彦(愛媛県埋蔵文化財調査センター)／中野良一(愛媛県埋蔵文化財調査センター)／柴田圭子(愛媛県埋蔵文化財調査センター)／森光晴(愛媛考古学協会)／長井数秋(日本考古学協会)／大澤正巳(日本考古学協会)

12. ご指導・ご協力をいただいた機関は、次の通りである。(敬称略・順不同)

奈良国立文化財研究所／京都造形芸術大学文化財保存科学研究室／奈良県立橿原考古学研究所及び同附属博物館／橿元興寺文化財研究所／橿京都科学／橿古環境研究所／桜井市文化財協会／大阪府立弥生文化博物館／大阪府教育委員会／愛媛大学／愛媛県埋蔵文化財調査センター／愛媛県歴史文化博物館

# 本文目次

I. 平成10年度 松山市埋蔵文化財調査概要	
大洲遺跡3次調査地	2
船ヶ谷遺跡3次調査地	6
北斎院地内遺跡4次調査地	10
南江戸客谷遺跡	12
松山大学構内遺跡5次調査地	16
道後今市遺跡12次調査地	18
梅味四反地遺跡6次調査地	20
梅味立浜遺跡2次調査地	26
小坂七ノ坪遺跡2次調査地	28
筋違M遺跡	32
久米才歩行遺跡4次調査地	36
下河屋遺跡3次調査地	38
北梅本太尺寺遺跡	42
来住町遺跡8次調査地	46
来住庵寺25次調査地	50
久米高畑遺跡41次調査地	54
久米官衙遺跡群 ～平成10年度の調査成果～	58
II. 平成10年度 松山市埋蔵文化財調査関係資料	
松山市埋蔵文化財確認調査一覧	64
松山市埋蔵文化財本格調査一覧	77
III. 平成10年度 保存処理	
保存処理事業I	82
保存処理事業II	86
IV. 平成10年度 啓蒙普及事業	88
1. 展示活動 2. 教育普及活動 3. 収集・保管活動 4. 広報・出版活動 5. 施設の利用 6. 資料の貸出 7. 職員研修・会議 8. 松山市文化財情報館	

## 挿図・写真目次

巻頭図版1	榑味四反地遺跡6次調査地	大型掘立柱建物址	弥生時代終末～古墳時代初頭
巻頭図版2	大海遺跡3次調査地	完掘状況	古墳時代初頭～中世
巻頭図版3	久米高畑遺跡41次調査地	1区完掘状況	古代

### 大湖遺跡3次調査地 ..... 2

図1	調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1	SR7遺物出土状況(北より)
図2	遺構配置図 (縮尺1:300)	写真2	掘立柱建物址群完掘状況(南より)
図3	出土遺物実測図 (縮尺1:4)		

### 船ヶ谷遺跡3次調査地 ..... 6

図1	調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1	II区北半部で検出された中世遺構 (南より)
図2	主要遺構配置図 (縮尺1:600)	写真2	掘立204・炉SK202の土鍋出土状況 (西より)
		写真3	III区完掘状況(南西より)
		写真4	SE301の構造(西より)
		写真5	SE201の構造(東より)

### 北斎院地内遺跡4次調査地 ..... 10

図1	調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1	A区完掘状況(北より)
		写真2	SK8風戸出土状況(東より)

### 南江戸客谷遺跡 ..... 12

図1	調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1	A区完掘状況(北東より)
図2	調査地測量図・遺構配置図 (縮尺1:80、1:500)	写真2	B区完掘状況(北西より)
図3	A区SD1出土遺物実測図 (縮尺1:3、1:6)		

### 松山大学構内遺跡5次調査地 ..... 16

図1	調査地位置図 (縮尺1:25,000)	写真1	第VIII層上面遺構完掘状況(東より)
----	---------------------	-----	---------------------

### 道後今市遺跡12次調査地 ..... 18

図1	調査地位置図 (縮尺1:25,000)
図2	遺構配置図 (縮尺1:100)
図3	出土遺物実測図 (縮尺1:4)

樽味四反地遺跡 6 次調査地	20
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 完掘状況 (北より)
図 2 調査地周辺図 (縮尺 1 : 2,000)	写真 2 S D001遺物出土状況 (南東より)
図 3 遺構配置図 (縮尺 1 : 200)	写真 3 掘立005 (北西より)
図 4 掘立005平断面図(縮尺 1 : 150, 1 : 40)	写真 4 掘立005土層断面 (S P 4) (南西より)
樽味立添遺跡 2 次調査地	26
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 遺構完掘状況 (北より)
図 2 遺構配置図 (縮尺 1 : 80)	
小坂七ノ坪遺跡 2 次調査地	28
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 S K13遺物出土状況 (南東より)
図 2 遺構配置図 (縮尺 1 : 100)	写真 2 完掘状況 (北より)
図 3 S K13出土遺物実測図 (縮尺 1 : 4)	
筋違M遺跡	32
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 東区完掘状況 (西より)
図 2 遺構配置図 (縮尺 1 : 150)	写真 2 西区完掘状況 (東より)
図 3 掘立 1 測量図 (縮尺 1 : 40)	
図 4 出土遺物実測図 (縮尺 1 : 3)	
久米才歩行遺跡 4 次調査地	36
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 完掘状況 (西より)
	写真 2 S R201完掘状況 (南西より)
下荀屋遺跡 3 次調査地	38
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 1 A・1 B区完掘状況 (北より)
図 2 調査地測量図 (縮尺 1 : 1,000)	写真 2 2・3号墓検出状況 (北西より)
図 3 出土遺物実測図 (縮尺 1 : 3)	
北梅本大尺寺遺跡	42
図 1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真 1 1区完掘状況 (南西より)
図 2 調査地測量図 (縮尺 1 : 1,000)	写真 2 2区完掘状況 (北より)
図 3 1区遺構配置図 (縮尺 1 : 200)	

来住町遺跡 8 次調査地 .....	46
図1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真1 調査区北半部完掘状況 (北より)
図2 遺構配置図 (縮尺 1 : 300)	写真2 調査区南半部完掘状況 (南より)
図3 S R 1 出土遺物表測図 (縮尺 1 : 3)	
来住廃寺 25 次調査地 .....	50
図1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真1 遺構検出状況 (南東より)
図2 トレンチ位置図 (縮尺 1 : 400)	
図3 遺構配置・土層断面図 (縮尺 1 : 50)	
図4 官衙の地割りと調査地の関係 (縮尺 1 : 2,000)	
久米高畑遺跡 41 次調査地 .....	54
図1 調査地位置図 (縮尺 1 : 25,000)	写真1 2 区完掘状況 (東より)
図2 遺構配置図 (縮尺 1 : 200)	写真2 掘立004全景 (東北東より)
図3 久米高畑遺跡主要部 (縮尺 1 : 2,000)	
久米官衙遺跡群 ～平成10年度の調査成果～ .....	58
図1 官衙の建物配置 (縮尺 1 : 500)	
図2 軒丸瓦表測図 (縮尺 1 : 3)	
図3 久米官衙遺跡群全体図 (100mメッシュ) (縮尺 1 : 2,000)	
保存処理 .....	82
写真1 釜ノ口遺跡 8 次調査地出土柱材 (処理後)	
写真2 釜ノ口遺跡 8 次調査地出土礎板 (処理後)	
写真3 東本遺跡 4 次調査地出土鉄鏡 (処理前)	
写真4 東本遺跡 4 次調査地出土鉄鏡 (処理後)	
写真5 東本遺跡 4 次調査地出土刀子 (処理前)	
写真6 東本遺跡 4 次調査地出土刀子 (処理後)	
写真7 松山大学構内遺跡 3 次調査地出土牛骨 (処理前)	
写真8 松山大学構内遺跡 3 次調査地出土牛骨 (処理後)	
写真9 北斎院地内遺跡 4 次調査地出土人骨 (処理前)	
写真10 北斎院地内遺跡 4 次調査地出土人骨 (処理後)	
写真11 遺物取り上げ作業 (船ヶ谷遺跡 3 次調査地にて)	
写真12 土層剥ぎ取り作業 (梅味四反地遺跡 6 次調査地にて)	
写真13 松山市内出土の青銅鏡	

啓蒙普及事業	88
写真1 夏休み親子体験学習セミナー作品展 「みんなで作った! 古代ファッションショーⅡ」	
写真2 特別展記念講演会① (講師は間壁霞子先生)	
写真3 特別展記念講演会② (講師は木下尚子先生)	
写真4 博物館実習風景	
写真5 チャレンジ考古学Ⅲ 発掘現場見学風景	
写真6 チャレンジ考古学Ⅲ 講座風景 (講師は柴田昌児調査員)	
写真7 古代ハス	

## 表 目 次

松山市埋蔵文化財調査関係資料	64
表1 平成10年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧	
表2 平成10年度 松山市埋蔵文化財本格調査一覧	
保存処理	82
表1 平成10年度 木製品保存処理遺跡名一覧	
表2 平成10年度 鉄製品保存処理遺跡名一覧	
表3 平成10年度 人骨・獣骨保存処理遺跡名一覧	
表4 平成10年度 調査出土金属製品・木製品・動植物遺骸体一覧	
啓蒙普及事業	88
表1 展示活動一覧	
表2 教育普及活動一覧(1)	
表3 教育普及活動一覧(2)	
表4 教育普及活動一覧(3)	
表5 教育普及活動一覧(4)	
表6 広報・出版活動一覧(1)	
表7 広報・出版活動一覧(2)	
表8 広報・出版活動一覧(3)	
表9 施設の利用一覧	
表10 資料の貸出一覧	
表11 職員研修・会議一覧	
表12 平成10年度(平成10年4月1日～平成11年3月31日)入館者一覧	

I 平成10年度

松山市埋蔵文化財調査概要

## オオブチ 大湊遺跡 3次調査地

所在地 松山市太山寺町333-1  
期 間 平成10年4月1日～同年9月30日  
面 積 34,159m<sup>2</sup>  
担 当 栗田茂敬・吉岡和哉



図1 調査地位置図

**経 過** 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「Na16船ヶ谷古墳群」内における緊急調査である。市営三光岡地の老朽化による建て替え工事に伴う事前調査として実施した。調査地は、太山寺山城の南東部に位置し、東方に開けた谷の出口に立地する。調査地の北方約500mの位置には大湊遺跡および大湊遺跡2次調査地、南側には三光遺跡、船ヶ谷遺跡群が展開しており、松山平野のなかでも特に、縄文時代後期から晩期、弥生時代前期にかけての遺跡が存在する地域である。また、周辺の丘陵上には古墳時代後期の群集墳をはじめ多くの古墳が分布することが周知されていた。従って、調査地における縄文時代から古墳時代にかけての集落構造解明を主目的に調査を実施した。

**遺構・遺物** 今回の調査において、古墳時代前期初頭から中世後期にかけての遺構を検出した。主要なものについて以下に記す。

[古墳時代前期] 調査区のほぼ中央部に、南西から北東に向かって流れる自然流路（SR7）を検出した。規模は検出長34.3m、幅0.34～3m、深さ22～40cmを測り、断面形態は逆台形状を呈する。出土遺物には、甕形土器、鉢形土器、高坏、器台などがあり、それらの完形品も多い。さらに小型丸底鉢や高坏、ミニチュア土器などが比較的多く出土しており、祭祀的な色彩を帯びている。

SR7周辺より竪穴式住居址7基、土坑2基（SK1・3）を検出した。しかし、いずれの遺構も遺存状態は良好でない。SK1の床面直上より山陰系鉢形土器が出土していることが注目される。

[古墳時代後期] 当該期に属する時期の遺構として掘立柱建物址6棟、流路3条（SD1・2・3）、土坑1基（SK2）がある。掘立柱建物はすべて2間×2間で、総柱の建物（掘立1・2・3）とそうでない建物（掘立4・5・6）の計2種類がある。また、切り合い関係や埋土の色調の違いより2時期に分けることが可能である。

[中世] 調査区の北東部から東端にかけて水田区画の一部を、西半部に集中して数条の溝（SR）を検出した。水田に係する施設としては東西方向に1条、南北方向に2条の小畦畔がある。地形的な制約のためであろうが、西あるいは南側から北東側に進むにつれて水田面を低く造っている。特に、調査区北東端部に位置する水田面の遺存状況は良好であり、数ヶ所から人間の足跡を検出した。

**小 結** 本調査において、縄文時代あるいは弥生時代の遺構を検出することはできなかったものの縄文時代から中世までの遺構や遺物を確認することができた。特に、SR7から大量に出土した古墳時代前期初頭の上層群は時期幅がある程度限定されており、当地域における今後の土器研究では欠かすことのできないものである。また、古墳時代後期の掘立柱建物址群を主体とする遺構の存在は、当該期における集落構造の解明に大いに役立つものである。 (吉岡)

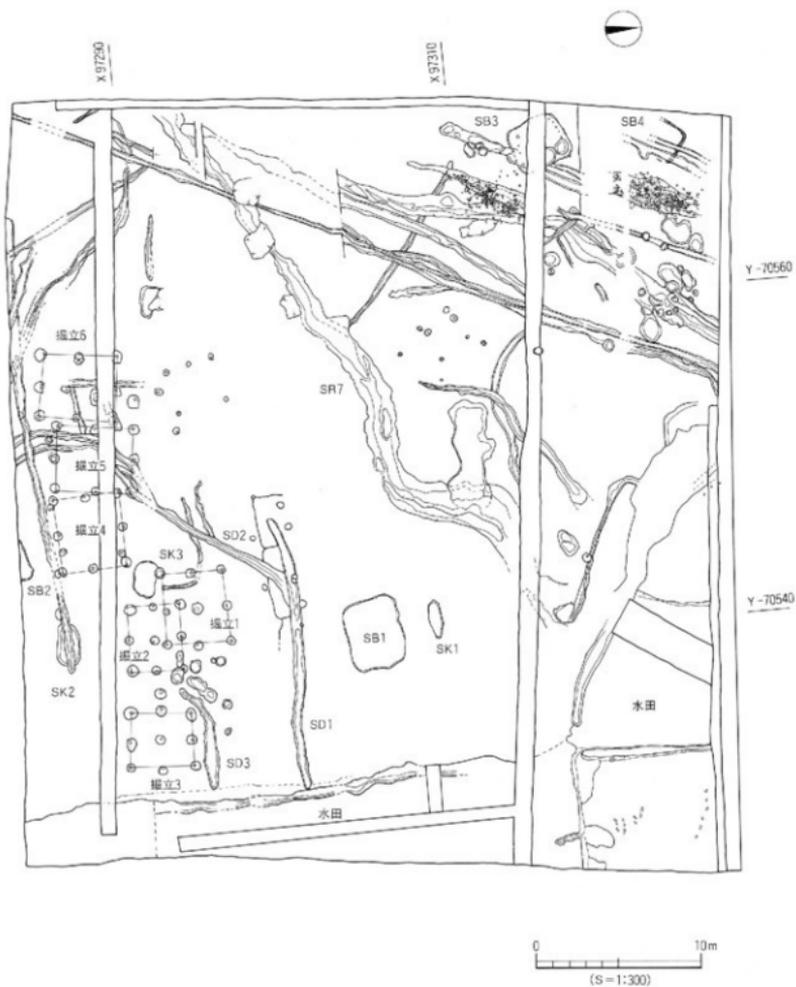


図2 遺構配置図

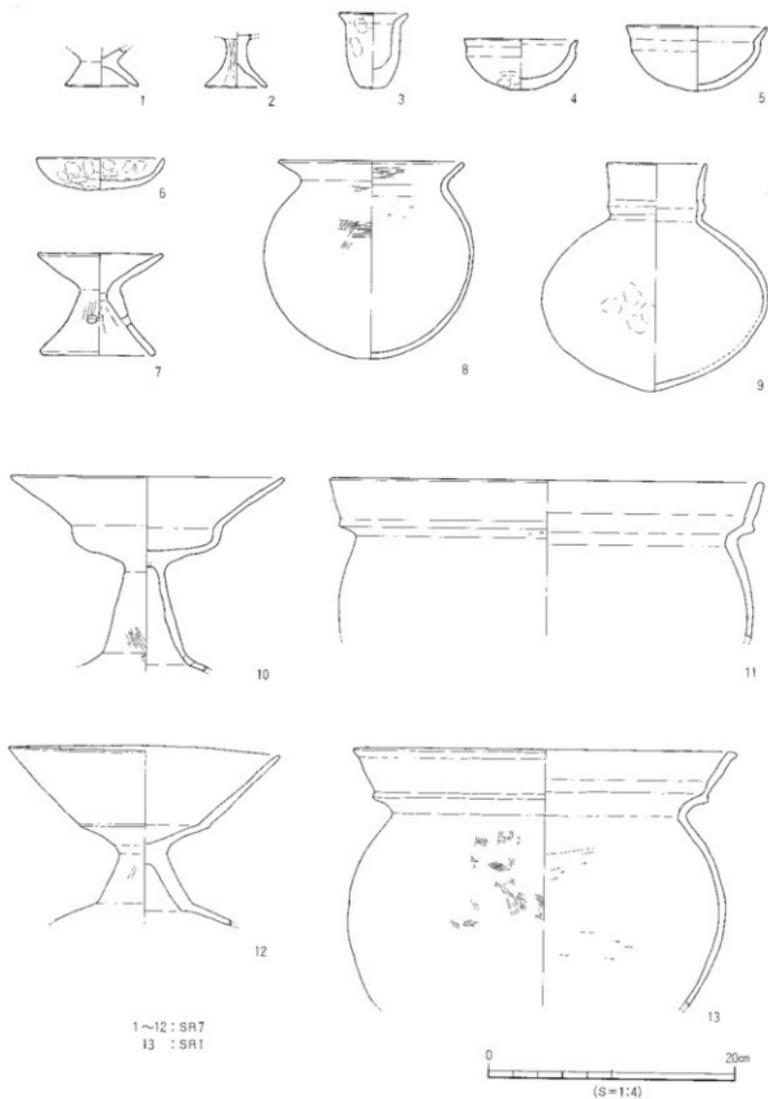


图3 出土遺物実測図



写真1 SR7 遺物出土状況(北より)

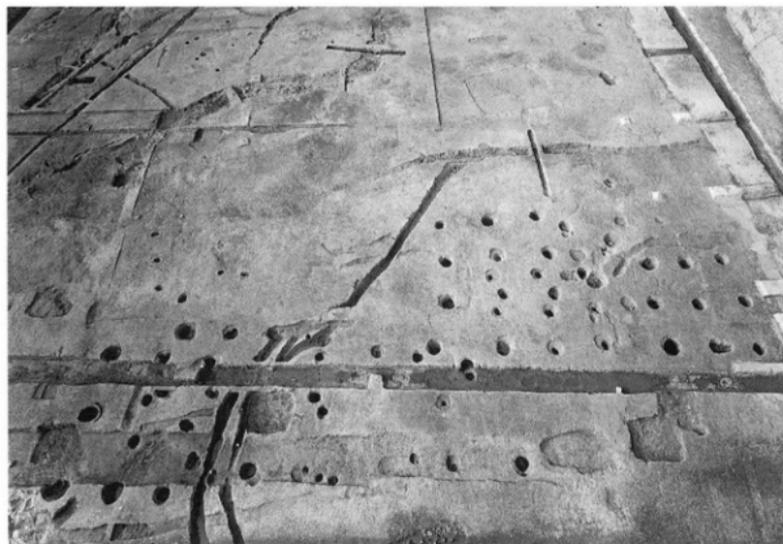


写真2 掘立柱建物址群 完掘状況(南より)

ツナガタニ  
船ヶ谷遺跡3次調査地

所在地 松山市安城寺町592-1 外6筆  
期間 平成10年4月7日～同年8月31日  
面積 5,730㎡  
担当 高尾和長・加島次郎



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No154久枝遺物包含地」内における店舗建設に伴う事前調査である。調査地は、松山平野西部を北流する久万川右岸の沖積低地（標高8m）に立地する。調査地周辺には縄文時代と古墳時代の遺跡がある。縄文時代では多量の土器が出土した船ヶ谷遺跡と大淵遺跡があり、晩期土器編年の基準資料になっている。古墳時代では船ヶ谷遺跡2次調査から4～5世紀の土師器が多量に出土した自然流路が検出され、調査地西の微高地に集落が展開するものと想定されている。丘陵部には、4世紀末の高月山古墳群、5世紀末～6世紀初頭の船ヶ谷向山古墳、船ヶ谷三ツ石古墳、6世紀の北山古墳群、東山古墳群がある。

遺構・遺物 遺構は、地表下0.5mの黒褐色土の上面で検出した。検出遺構は、縄文時代晩期～弥生時代終末の自然流路2条、中世（南北朝～室町時代）の掘立柱建物址8棟、井戸6基、土坑4基、溝4条、櫛列5基、柱穴388基である（図2、写真1・3）。自然流路は、埋土の状況から水量は少なく、湿地状によんでいた可能性が高い。掘立204には炉SK202が伴い、炉からは炭化物・焼土と土鍋が1個体出土した。6基の井戸は二段掘りの構造で、下部に曲物が伴う。SE201は上部に石組みをもち、重厚な造りである。SE301からは曲物が出土した。曲物は三個体を積み上げた構造で、容器からの転用品である。

遺物は、コンテナ24箱分が出土した。自然流路からは縄文土器、弥生土器、石器が出土した。縄文土器では深鉢と浅鉢、弥生土器では甕、壺、鉢、石器では打製石鏃、スクレイパー、石錘、敲石、石核がある。中世の遺物では、土師器、須恵器、瓦器、貿易陶磁器、石器、鉄器がある。中世の遺物の多くは平皿と皿で、SD201に伴うものである。貿易陶磁器は少なく、破片3点である。

小結 本調査では、縄文時代晩期～弥生時代終末、中世の遺構と遺物を検出した。中世の遺構は、集落の一部を構成するものである。集落は、溝によって区画され、区画内には掘立柱建物址、井戸、櫛列が配置されている。掘立202は、炉を検出したことから炊事にかかわる建物（厨）と考えられる。出土遺物は日常的に用いられたうつわが大半を占めている。さらに、貿易陶磁器は少なく、中国銭や硯等がみられないことから、検出された集落が一般民衆の農村的性格をもつものと考えられる。本調査地から北にむかって微高地が続くことから、集落が調査地の北に広く展開することが予想される。

（加島）

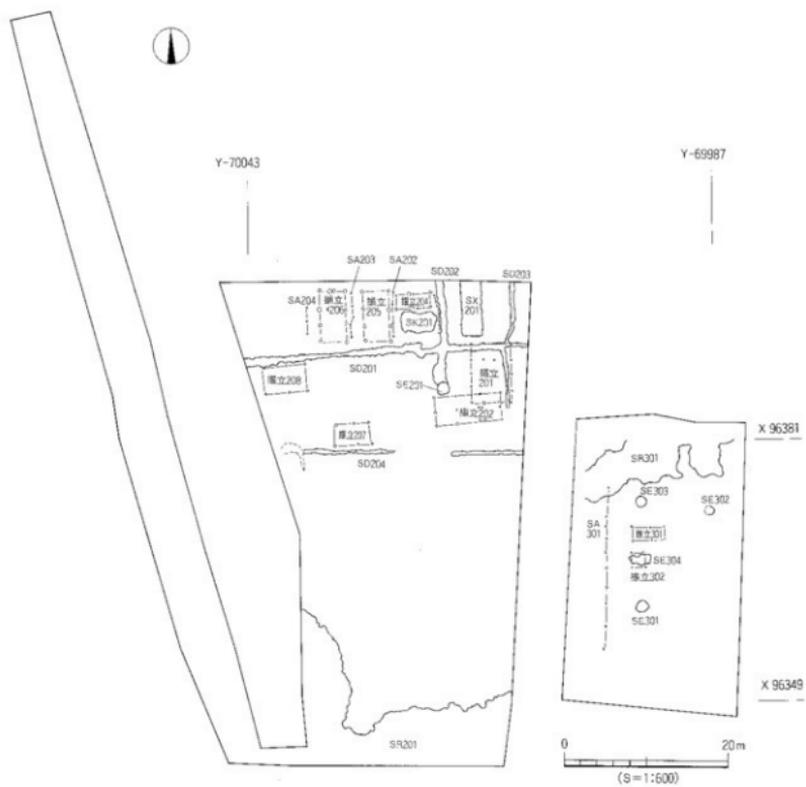


図 2 主要遺構配置図



写真1 II区北半部で検出された中世遺構（南より）



写真2 掘立204・炉S K 202の土鍋出土状況（西より）



写真3 III区発掘状況(南西より)



写真4 SE301の構造(西より)



写真5 SE201の構造(東より)

## 北齋院地内遺跡 4 次調査地

所在地	松山市北齋院町221-1
期間	平成10年10月1日～平成11年1月29日
面積	976m <sup>2</sup>
担当	梅本謙一・水本完児



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No.29北齋院遺物包含地」内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は、松山平野の西部にあり、標高8.8mに立地する。調査地の東隣には北齋院地内遺跡2次調査地、東17mには北齋院地内遺跡1次調査地、南には北齋院地内遺跡3次調査地があり、調査地周辺は中世の集落遺跡が展開している。

遺構・遺物 調査地の基本層位は、第I層耕作土、第II層床土、第III層淡黄灰色土、第IV層灰茶色土、第V層暗褐色土(中世の遺物包含層)、第VI層灰色土、第VII層褐色砂、第VIII層灰色砂、第IX層灰色粘土、第X層青灰色粘土である。

遺構は、第VI層上面では中世の掘立柱建物址3棟、溝(SD)7条、井戸(SE)2基、墓2基、土坑(SK)13基、柱穴(SP)381基、性格不明遺構(SX)1基を検出した。遺物には弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、瓦質土器、石器、鉄製品がある。以下、主要なものについて記す。

SD2は、調査区南端に位置する。東壁と南壁での土層観察では、遺構は調査区外に続いている。また、南側はSK6、墓1、墓2に切られている。規模は全長7.35m、幅2.8～3m、深さ55cmを測る。遺物は土師器、須恵器、埴輪、瓦質の釜、亀山焼の甕、鉄、石器、拳大の鎌が出土している。

SK8は、調査区北西部に位置する。平面形態は円形を呈し、規模は南北1.95m、東西1.90m、深さ9～18cmを測る。遺物は、土師器、瓦質の風炉、天目椀、備前焼の摺り鉢、石器が出土した。

小結 本調査では、中世遺構と、弥生時代から中世までの遺物を検出した。溝SD2は2次調査地でも検出された溝で、すでに墓との関係も判断されていたが、今回は両者の時間的関係を裏付けるものになった。SD2は墓1・2に切られ、SD2は15世紀後半、墓1・2は16世紀初頭であることが明らかになった。また、SD2は1・2次調査地と合わせ考えれば、集落区画の溝の可能性があり、居住区域はSD2の北側であることが明確になってきた。

遺物では、土坑SK8から出土した瓦質の風炉が注目される。中世の瓦質の風炉は、県内では小破片しか出土しておらず、完形品に近い状態で出土したのは初例になる。

今回の調査では、北齋院地内遺跡一帯は15世紀後半に集落(居住区)が東西に広がり、16世紀初頭には墓域に転化していたことが明らかになってきた。

(水本)



写真1 A区完掘状況（北より）

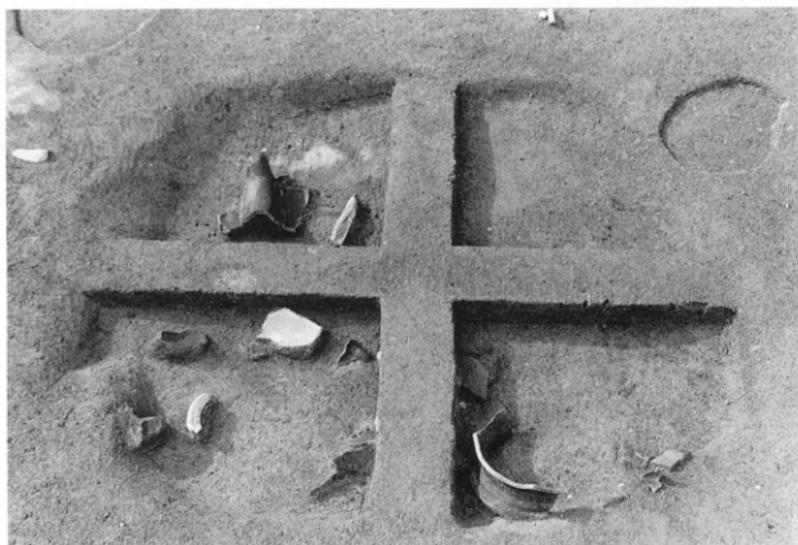


写真2 SK8風炉出土状況（東より）

## 南江戸客谷遺跡

所在地 松山市南江戸6丁目1313-1 外5筆  
 期間 平成11年2月16日～同年3月12日  
 面積 864.22㎡  
 担当 河野史知・小笠原善治



図1 調査地位位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No.35古照遺跡」内における宅地開発に伴う事前発掘調査である。調査地は、松山平野西部の独立丘陵である大峰ヶ台丘陵の南西裾部にあり、標高15mに立地する。大峰ヶ台丘陵には、西丘陵を中心とした古墳時代前期から終末期にかけての古墳が多数検出されている。また、南に広がる沖積低地部では、古墳時代前期の農業灌漑用の井堰を検出した古照遺跡や、中世の遺跡である南江戸圃目遺跡があり、古墳時代から中世にかけての遺構や多数の遺物が出土している。これらのことから、調査は、調査地及び周辺地域の集落構造解明を主目的として実施した。なお、便宜上調査区をA区・B区に区分した。

遺構・遺物 基本層位は第I層表上、第II層耕作上、第III層灰褐色土、第IV層暗褐色土（中世の遺物包含層）、第V層黄色土（地山）である。遺構は第V層上面より、古墳時代から中世のものでA区は竪穴式住居址1棟、掘立柱建物址3棟、土坑1基、溝4条、柱穴25基、鋤跡9条、性格不明遺構1基、B区は溝3条、柱穴3基を検出した。

古墳時代の遺構は、竪穴式住居址1棟、掘立柱建物址3棟、溝3条（SB1、掘立1・2・3、SD2・3・4）がある。SB1はA区東側に位置する。南側はSD1に切れ、東側は調査区外に延びる。平面形態は方形を呈する。住居址の北東隅だけの検出ではあるが、西側の壁体に壁体溝を検出した。出土した須恵器・土師器片から6C前半と考える。掘立柱建物址はいずれも古墳時代後期のものである。掘立1はA区北西部に位置し、西・北側は調査区外に延びる。東西1間以上、南北1間以上、柱穴の直径60～70mを測る。柱穴は円形を呈する。掘立2は調査区北東部に位置し、東・北側は調査区外に延びる。東西4間以上、南北1間以上、柱穴の直径50～90cmを測る。出土遺物は、須恵器・土師器片に混じり、柱穴上層より滑石製の白玉が出土する。掘立3はA区北東部に位置し、北・西側は調査区外に延びる。東西2間以上、南北2間以上、柱穴の直径20～40mを測る。SD2は南から北に向かって直線的に延び、東北方向に湾曲しているが、北東側は後世の削平をうけ消滅したと考えられ、その内側に位置する同埋土のSP23を主柱穴とするならば、隅丸方形の竪穴式住居址も考えられ、SP23とSB1の切り合いより、SB1に先行する時期の住居址の可能性もある。SD3は、隅丸方形の竪穴式住居址も考えられるが、主柱穴は検出されていない。

中世の遺構は、SD1・5・6・7と柱穴を検出し、時期は14世紀代のものである。SD1はA区南東部に位置する。両端は調査区外に延び、SB1・SD2・掘立2を切る。東西方向に直線的に延びており、西端は南へ屈曲する。断面形態は逆台形状を呈する。検出面よりの深さ40～60cmを測る。

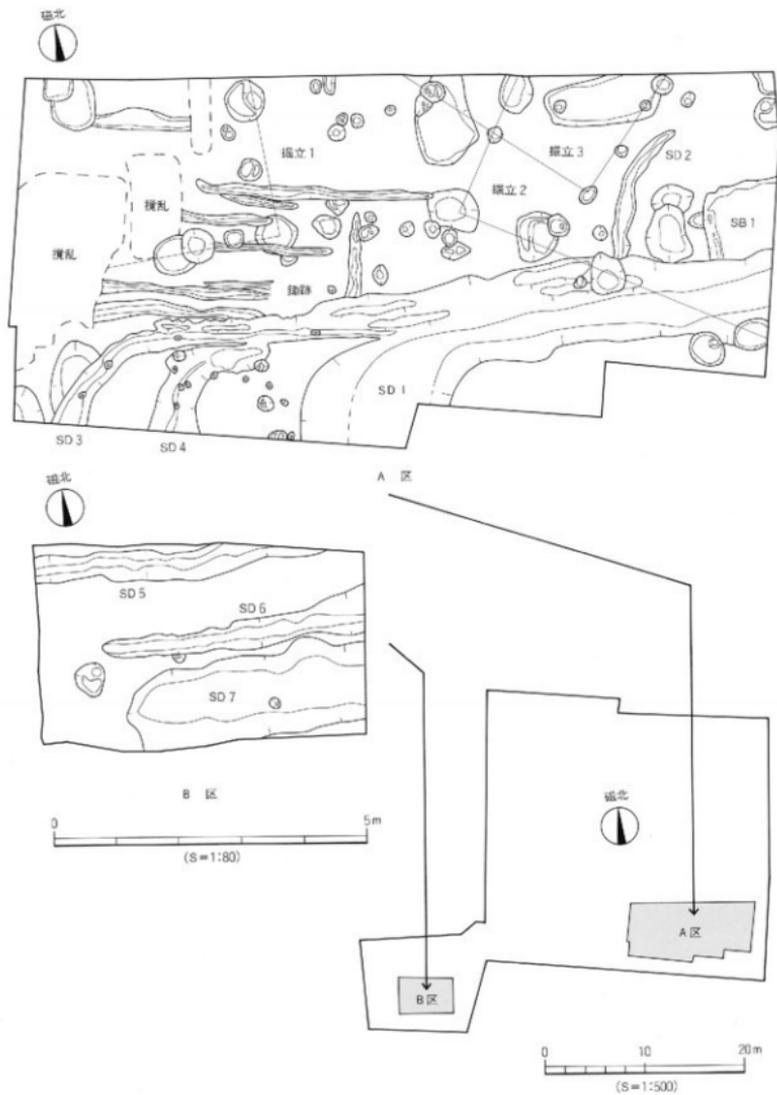


図2 調査地測量図・遺構配置図

溝の南側は、北側に比べ40~50cm低い。出土遺物は上層から下層にかけて、土師器の椀・皿、土鍋・土釜、瓦器の椀、須恵器のこね鉢、青磁碗、石鍋等が出土する。

小 結 今回の調査では、古墳時代と中世の遺構を確認することができた。古墳時代の竪穴式住居址や掘立柱建物が検出されたことから、当該期の集落が調査地周辺に展開していることがわかった。S D 1は、埋土の堆積状況から短時間に溝が埋められたことが窺えられ、溝の形状より集落を区画する溝が考えられる。溝の内側が外側に比べ低い。これは、人為的に下げられた可能性が高いが、北西隅だけの検出で、全容は不明であり、当調査地の地形が北から南へ緩傾斜する地形であることもふまえて、今後の周辺の調査に期待したい。また、中世の包含層より出土した貨泉は流れ込んだものと考えられる。この貨泉は、松山平野では2例目の貴重な資料の出土である。今後の課題は、集落の範囲や動向を検討する必要がある。

(河野)

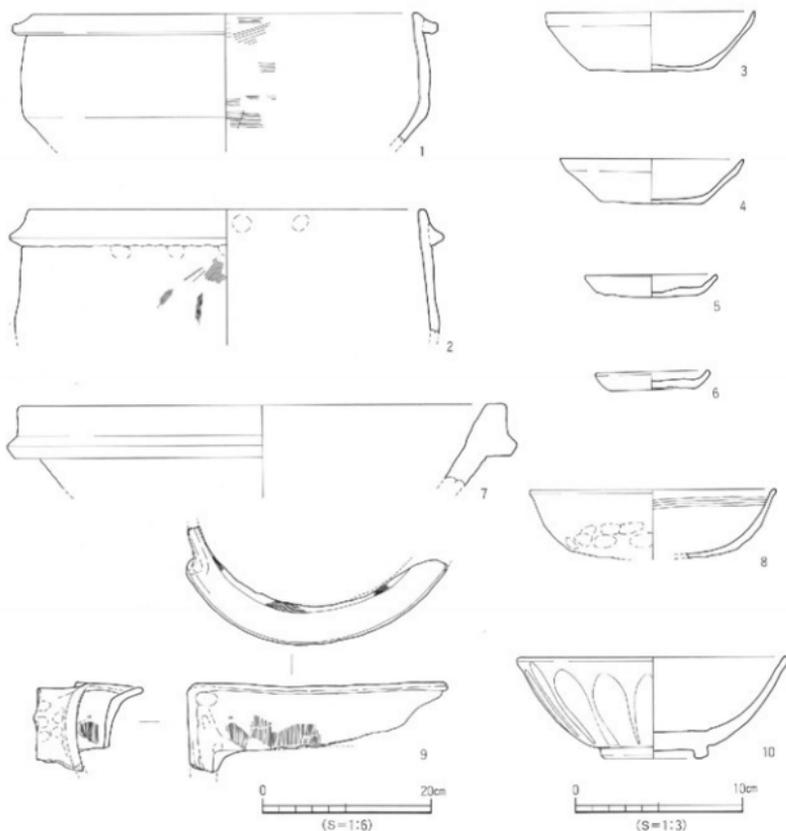


図3 A区S D 1出土遺物実測図



写真1 A区完掘状況(北東より)



写真2 B区完掘状況(北西より)

## 松山大学構内遺跡 5 次調査地

所在地	松山市文京町4番地2
期間	平成10年4月3日～同年9月30日
面積	315m <sup>2</sup>
担当	梅木謙一・水本完児



図1 調査地位置図

**経過** 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「67種又（元練兵場）遺物包含地（文京遺跡）」内における校舎建設に伴う事前調査である。松山大学は松山平野の中央部、標高26.9mに立地する。構内では、これまで4度にわたる発掘調査（試掘調査を含む）が実施されている。遺構には、弥生時代～古墳時代の竪穴住居址と溝を含む集落関連遺構を多数確認している。遺物には、弥生時代～中世の遺物を確認している。

**遺構・遺物** 調査地の基本層位は、第I層造成土、第II層茶灰色土、第III層灰色土、第IV層褐色土、第V層黒褐色土、第VI層淡い茶色粘土、第VII層明黄色シルト、第VIII層黒褐色シルト、第IX層暗黄色シルト、第X層礫層である。遺構には、古墳時代～古代、中・近世のものがあり、遺物には、縄文時代～中世の遺物を確認した。遺構は、第VI層上面では土坑1基（SK1）、第VII層上面では溝5条（SD1・2・4・9・10）と自然流路2条（SR1・2）、第VIII層上面では溝1条（SD8）、第IX層上面では自然流路3条（SR3・4・5）、土坑2基（SK3・4）と焼土1基を検出した。

第VII層上面では、SR2を調査区北東部～南東部にかけて検出した。検出層位より中世とする。規模は全長10m、幅50～120cm、深さ10～30cmを測る。埋土は灰褐色土に砂が混じるものである。出土遺物には、完形品である須恵器の平瓶と弥生土器がある。

第IX層上面ではSR4を調査区西から南東部にかけて検出した。規模は全長21.3m、幅80～240cm、深さ5～50cmを測る。埋土は灰色砂に礫が混じるものである。出土遺物には、弥生土器と須恵器がある。時期は、出土遺物より古墳時代後期～古代とする。ところで、弥生土器は前期の土器である。

**小結** 本調査では、遺構は古墳時代～中世の溝6条、自然流路5条、土坑3基、焼土1基を検出し、遺物は縄文晩期～中世の土器・石器が出土した。溝は、一般的に生活での排水や水田、土地区画に利用されるものであるが、今回検出の溝6条は遺存状況が恵まれず、その用途までは特定できなかった。

遺物では、弥生時代前期の土器が目される。出土品は前期IIに比定されるもので、東500mの東中学校（文京遺跡4次）で同時期の竪穴式住居址が出土している。本資料は、SR4の混入品であるが、東中学校構内からのものにするにはその距離から理解しがたい。よって、松山大学構内もしくは隣接地に弥生前期II段階の集落が存在するものと推察できる。

今回の調査では、松山大学構内の弥生～古墳時代の居住域を推定する資料を得たことになる。また、新しく近隣に弥生前期の集落が存在を明らかにした。

(水本)



写真1 第Ⅶ層上面遺構発掘状況（東より）

ドク イフ イキ  
道後今市遺跡12次調査地

所在地 松山市道後今市998番地15  
期間 平成10年7月24日～同年10月6日  
面積 160㎡  
担当 西尾幸則・政本和人



図1 調査地位置図

経 過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No68今市遺物包蔵地」内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は、石手川扇状地と丸丸山川・大川による扇状地が接する標高約34mの扇状地性氾濫原上に立地する。周辺には文京遺跡・道後樋又遺跡が所在し、道後今市遺跡では11次及び調査が行われている。これまでに弥生時代から古墳時代・中世の集落関連遺構及び生産地遺構が多数確認されており、今回は古墳時代集落の解明を主目的として実施した。

遺構・遺物 当調査地の基本層序は8層で、各層の特徴は以下の通りである。

第Ⅰ層は造成土、第Ⅱ層から第Ⅳ層まで耕作土。第Ⅴ層の灰色砂質土は洪水の跡と考えられる。本層の上下においても部分的に砂質土壌がみられ、数回の洪水が想定される。第Ⅵ層の黄色粘質土は床土、これより上は攪乱を受けていると考えられる。第Ⅶ層の暗茶褐色土から土師器片などが多く出土した。第Ⅷ層の黄褐色土は基盤層である。遺構は、第Ⅶ層中で古墳時代中期以降(SB1、SP1～19)および第Ⅷ層上面で弥生時代(SD1、その他)の遺構を確認することができた。

弥生時代の溝(SD1)は調査区の南東部に位置し、南東から北西に走る。規模は、検出長13m、幅は1m、深さは検出面より20cmを測る。溝の比高差は北西方向にやや低い。また、位置関係よりSD1は隣接する11次調査地から続く一連の遺構である。遺物は弥生土器の底部片が出土している。

古墳時代の竪穴式住居(SB1)は調査区の北東部に位置する。北辺は調査区外になるため、全容は不明であるが、規模は東西4.3m南北4.3mの隅丸方形になるものと考えられる。埋土は灰褐色砂質土と黄褐色土で、調査区北壁にかかる断面の詳細な観察から、洪水による埋没と考えられる。また、住居に伴う土坑(SK1)1基と主柱穴3基を検出した。遺物は、住居址床面より鉄器が1点、主柱穴内より須恵器片が少量出土。土坑内からは土師器の甕が出土している。遺構の時期は、出土遺物から古墳時代中期以降と考えられる。

このほか古墳時代以降の柱穴群19基を検出した。柱穴群の一部からは、土師器と須恵器の細片が出土したのみで、遺構の性格は特定しがたいが、棚列等を想定している。

小 結 今回の調査では、隣接する11次調査地において確認された縄文時代の遺物に関連する遺構は検出されなかったが、弥生時代の溝1条と古墳時代中期以降の竪穴式住居1棟を確認できた。特に竪穴式住居址からは、鉄器や甕の頸部片など生活関連遺物が確認でき、当該期における集落構造の一端がうかがえる資料が得られた。周辺の調査事例も含め、当地域は不安定な地勢に古墳時代以降も集落が営まれていたと考えられる。

(西尾)

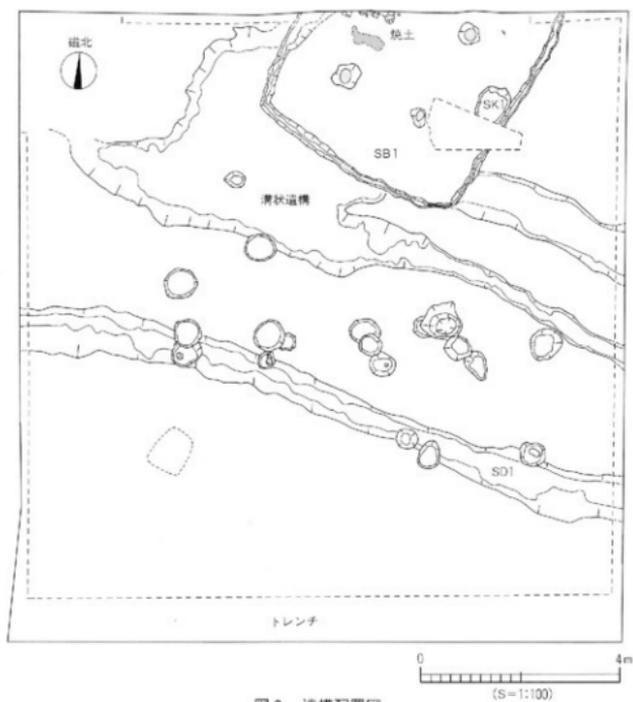


図2 遺構配置図

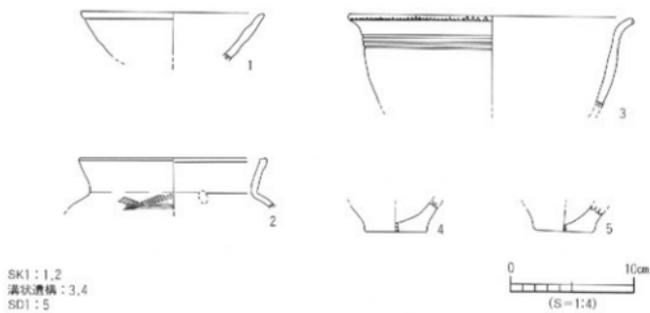


図3 出土遺物実測図

## チルミシタンシ 樽味四反地遺跡 6次調査地

所在地 松山市樽味4丁目230番外一筆  
期間 平成10年5月20日～同年12月25日  
面積 999㎡  
担当 橋本雄一・小玉亜紀子



図1 調査地位位置図

経 過 本調査は、個人住宅の開発に伴い、松山市が国から補助を受けて実施した。調査地は石手川中流域南岸に位置している。過去において周辺では、樽味四反地遺跡1～5次調査、樽味高木遺跡1～3次、樽味立浜遺跡1～2次、樽味遺跡Ⅰ～Ⅲ次（愛媛大学農学部構内）などの本格調査が実施されている。その結果、弥生時代～近世に至るまでの多くの遺構・遺物が確認されている。特に、弥生時代中期末～後期、古墳時代中期～後期ごろの、竪穴式住居址や掘立柱建物址が数多く検出されており、この地に継続的に集落が営まれていた事が解ってきた。今回の調査では、樽味地区西部の各時期における集落関連遺構の確認を目的とした。

遺構・遺物 主な遺構は、弥生時代後期末～古墳時代初頭ごろに廃絶された大型掘立柱建物址と、その建物に付随する溝と柵である。他に、古墳時代中期～後期初頭ごろの多数の住居址群を確認した。

主な遺構のうち、弥生時代後期末～古墳時代初頭ごろの遺構は以下のとおりである。

掘立005は、調査区南部に位置し、桁行き6間（12.5m）・梁行き6間（10.5m）の総柱掘立柱建物である。柱は全て抜き取られていたが（図4）、抜き取り痕跡より、柱の太さは直径30cm程度と推測される。柱抜き取りは一度であるが、SP6については建て直した可能性も考えられる。SP6・12については、礎石痕跡と推測される土層も確認している。遺物は土器の小片が少量出土したのみである。柱設置当初の埋土からも、また、抜き取り跡の埋土からも外面が叩き調整された土器の割片が出土している。

調査区北部においては、SD001とSA001・002を検出した。ともに掘立005に対して平行に位置している。SD001は直線溝で、幅約2m、深さ約0.7m、断面形はU字形、底面はほぼ水平である。埋土は3層に分層でき、中・下層中より大量の土器片と河原石が出土した。溝の北側斜面により多くの土器片が貼り付いた状態が確認できたことから、溝を埋めた土は、北側から入れられたと考えられる。溝の埋没時期は、これらの土器から、古墳時代初頭ごろと考える。SA001・002は、SD001の南辺から約2m離れたところで検出した。両者は平行に位置している。この柵からは、遺物は出土していないが、その位置関係からSD001と一連の施設を形成するものと考えられる。なお、溝と柵は掘立005の外郭施設であると推測する。

この他に、古墳時代中期～後期初頭ごろの住居址多数を確認した。竪穴式住居址は方形で、35基を数える。同じ場所でも幾度も建て直しが行われているが、出土した須恵器の形状から、概ね古墳時代中期ごろに集中して建てられたものと考えられる。ただし、SB004については、7世紀代のものである。

土器以外の遺物では、殆どの住居址から滑石製の白玉やガラス製の小玉といった玉類が多く出土した。特に、一辺8m四方を測るSB002では、白玉や小玉の他に瑪瑙製の勾玉1点も出土した。別の住居址の床面からは、完形の須恵器の坏身と坏蓋が合わさって出土した。坏身内には、直径1.5cm大の河原石が11個入れられていた。これらは住居址の廃絶や改築に伴う屋内祭祀に関連する遺物であると考えられる。なお、周辺の調査でも同時期の住居址が多く確認されており、集落の範囲の特定を行うことが、今後の課題である。

この他にも、弥生時代の円形住居址の痕跡が数棟確認できた。また、掘立005の付近において土器棺墓を1基検出した。中世の掘立柱建物址2棟と柵1条、古代では、総柱掘立柱建物址1棟を確認している(掘立008)。

小 結 今回の調査の最大の成果は、弥生時代後期末～古墳時代初頭ごろに廃絶された大型掘立柱建物跡の存在が確認できたことである。この時期の大型掘立柱建物址の検出は中四国地域では初例である。また、建物に付随する溝や柵の存在から、首長居館である可能性も考えられる。大分県日田市の小迫辻原遺跡などの例を参考にして、一辺50m程度の方形の外郭施設を伴う居館であると推測する。

今後の課題は、敷地の形状と付属施設の有無を確認することである。

(小玉)

参考文献：「まちづくりフォーラム'96黎明の比多國一小迫辻原遺跡の世界一」

まちづくりフォーラム'96開催実行委員会他 1996年

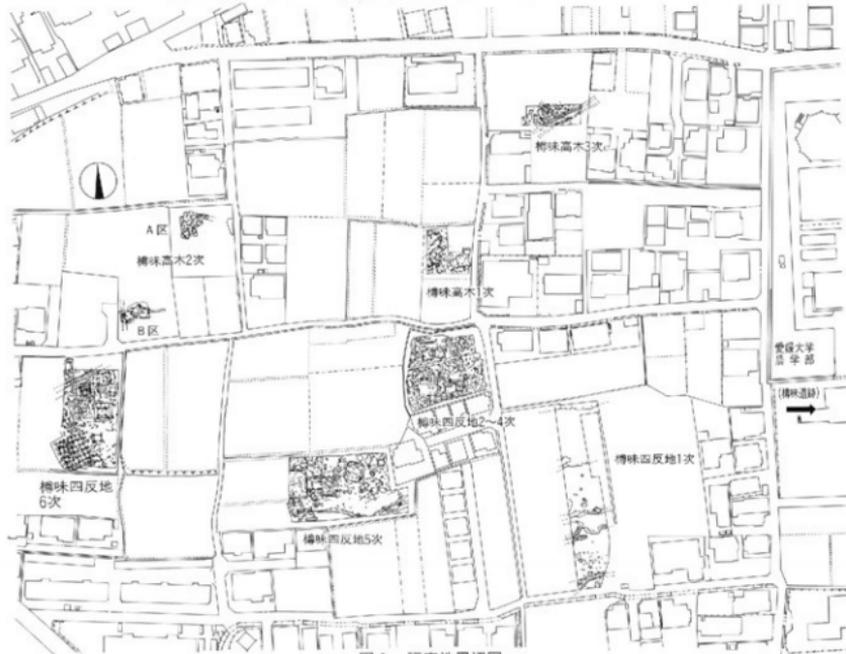


図2 調査地周辺図



図3 遺構配置図

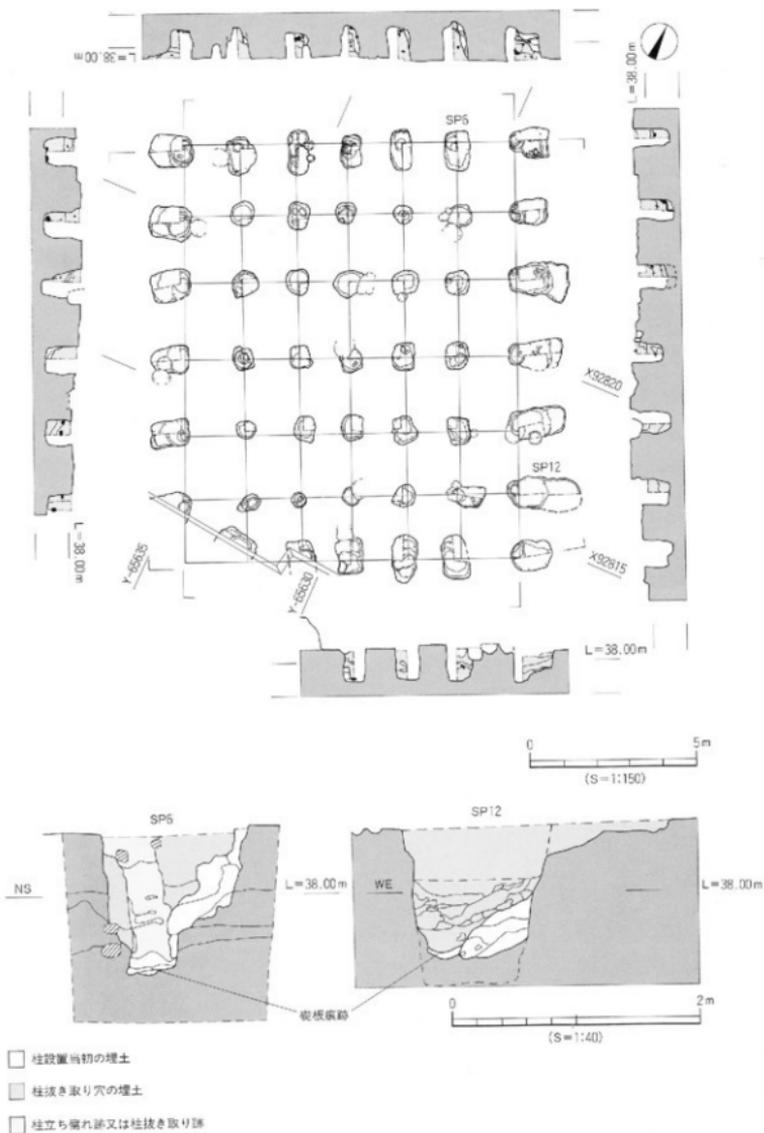


図4 掘立005平断面図



写真1 完掘状況(北より)



写真2 S D 001 遺物出土状況(南東より)

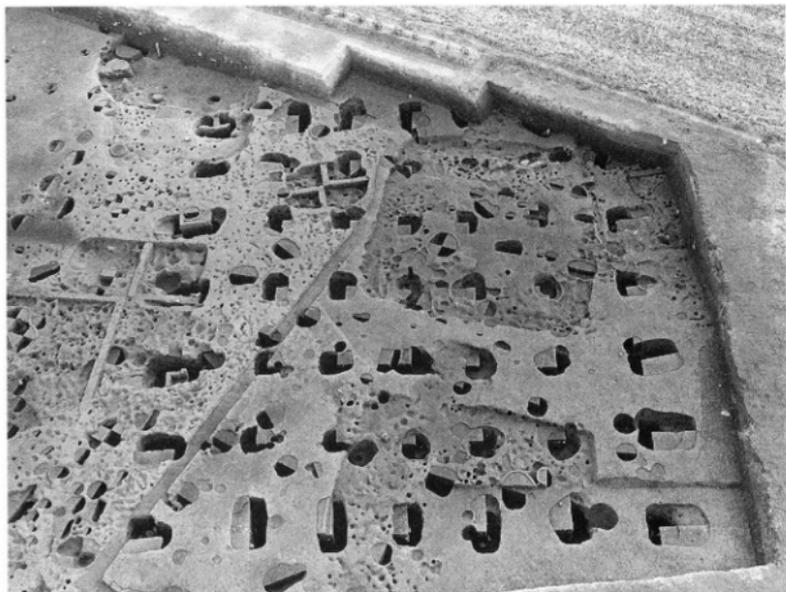


写真3 掘立005 (北西より)

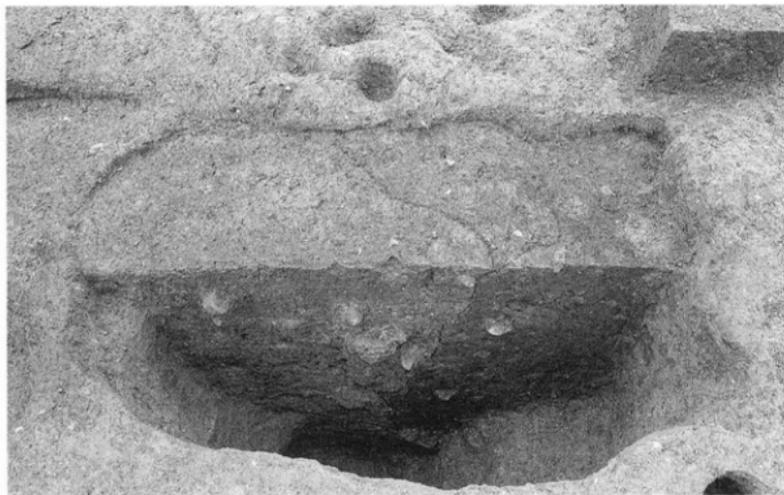


写真4 掘立005 土層断面 (SP4) (南西より)

## 樽味立添遺跡 2 次調査地

所在地	松山市樽味 2 丁目 59 番
期間	平成 10 年 7 月 22 日～9 月 1 日
面積	292m <sup>2</sup>
担当	橋本雄一・小玉亜紀子



図 1 調査地位置図

経過 松山市埋蔵文化財包蔵地「No81樽味遺物包含地」内に所在する、個人住宅の建て替えに伴って、松山市が国から補助を受けて調査を実施したものである。当該地は、松山平野北部を流れる石手川の中流左岸に位置しており、その北側には、この川に由来する段丘状の地形が隣接している。調査地は、昭和63年に調査が実施され、弥生時代と古墳時代の濃密な集落が検出された、同1次調査地のすぐ西に接している。この調査の際には、中国新王朝において西暦14年頃に鑄造された「貨泉」が一枚出土している。したがって、樽味地区に広く展開している集落の中でも、中心的な位置を占める住居群の存在が予想され、今次の調査が注目された。なお、この調査は、5月下旬から調査を行っていた樽味四反地遺跡6次調査と平行して実施された。

遺構・遺物 東に接する1次調査地において確認されていた古墳時代を中心とする集落は、調査地の位置する西には広がらない事実が明らかになった。当該期の遺構が少なく、建物として認定可能なものも少数しか検出されなかった。したがって、この集落の中心域は東に展開するものと考えられ、当該箇所は、集落の辺縁部に当たると理解している。

明確に弥生時代に所属すると断定可能な遺構は確認されていない。弥生土器の小片が少量出土しているのみである。遺構と遺物の多くは、古墳時代の後期と江戸時代に所属する。

S K 001 と S K 007 は、古墳時代の土坑である。ともに側面の一部が反り返るように掘られた特徴が認められた。出土した少量の須恵器から、古墳時代後期ののものであると推測している。また、調査地東部に存在する浅く小規模な柱穴は、掘立柱建物の一部を構成していたものと考えている（掘立柱001・002）。東に展開する集落の西端に位置する建物であろう。

方形の土坑：S K 002 と、円形土坑：S K 003 は、ともに江戸時代後期を上限とする時期の遺構である。S K 002 については、墓の掘り形の下場に当たる可能性も否定できないが、詳細は不明である。これらの遺構からは、当時の土地の区画溝である S D 001 と同様、染め付けの破片が少量出土していることから、時期的に近接するものと考えられる。S K 003 からは、ひき臼の破片と平瓦片のほか、拳大の円鏝が出土している。なお、S D 001 と重複する S K 004 についても、同じ時期の土坑であることがわかっていてる。

(橋本)

樽味立派遺跡 2次調査地

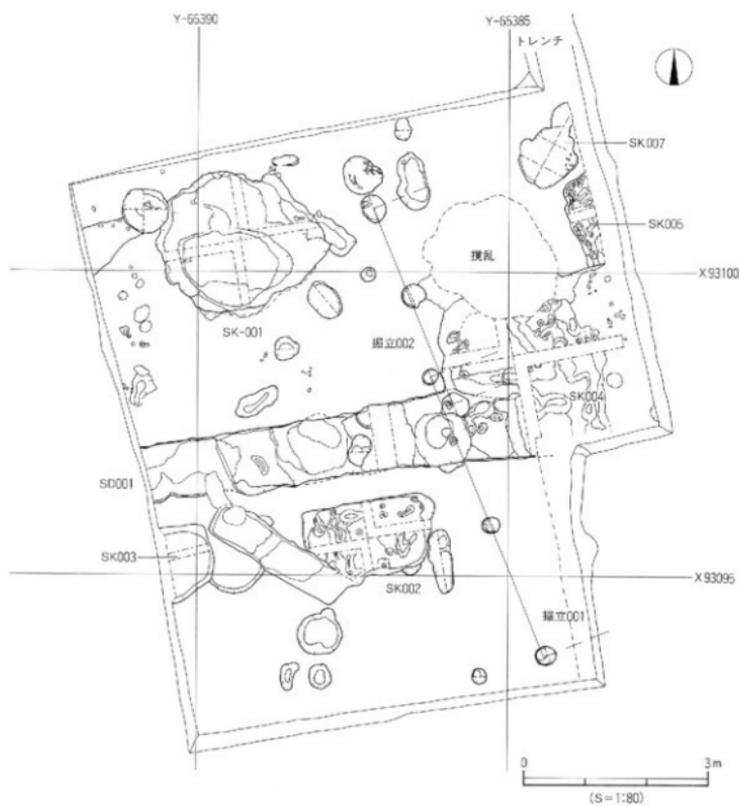


図2 遺構配置図



写真1 遺構完掘状況(北より)

コヤカシチノツボ  
小坂七ノ坪遺跡 2次調査地

所在地 松山市小坂2丁目  
期間 平成10年9月1日～同年10月31日  
面積 781.29㎡  
担当 小笠原善治・河野史知



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「Na110釜ノ口遺跡」内における宅地造成工事に伴う事前の発掘調査である。調査地は、石手川左岸扇状地の扇端部にあり、標高29.30mに立地する。同包蔵地内では、西方300mに弥生時代後期と奈良時代の集落跡が検出された「中村松田遺跡」、北方200mには5～6世紀の「素鷲小学校遺跡」等がある。その他、南方には弥生時代後期の「釜ノ口遺跡」などがある。特に、南に隣接する「小坂七ノ坪遺跡1次調査地」より7～8世紀代の遺構・遺物が確認されている。このことから、調査地及び周辺地域の弥生時代から古代にかけての集落の広がりや、構造解明を主目的として調査を実施した。

遺構・遺物 調査地は、調査前は工場跡地であったため、地表より厚さ15cm程度の造成（真砂土）がなされていた。基本層位は、第I層造成土、第II層近現代耕作土、第III層近現代耕作土の床上、第IV層近世耕作土、第V層近世耕作土の床土、第VI層黒褐色砂質土、第VII層黒色砂質土、第VIII層黒色砂質土、第IX層基盤層である。遺構は第IX層上面で検出し、調査地北東部から南西部に向かって緩傾斜をなす。また、南西部北半では一部に砂礫層を検出した。

検出した遺構は、弥生時代から古代までのもので、弥生時代の溝3条、土坑2基。古墳時代～古代の溝3条、土坑2基、その他には、石手川の氾濫と思われる砂層を検出した。

以上の主な遺構・遺物について概説する。

〔弥生時代〕 SK13は、調査地北西部に位置し、SD2を切り、SD1に上部を削平される。平面形は円形を呈し、規模は直径1.3m、深さ70cmを測る。断面形は逆台形状を呈する。埋土は上下2層にわかれ、両層ともに10cm～20cm大の礫を含む。出土品は土器に限られ、壺、甕、鉢、高坏、甕台がある。また、個体数は30点以上を数え、そのうちほぼ完形品のものは24点出土している。遺構の時期は、出土した遺物から後期後葉である。

〔古代〕 SD1は、調査区を東西に走る溝である。規模は、検出長16.5m、幅1.25m～3m、深さ50cm～60cmを測る。比高差は、やや西部が低位を示し、底面は、土坑状の掘込みが8ヶ所にみられる。出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器、瓦片が出土。遺構の時期は、出土遺物から7～8世紀である。小結 今回の調査では、弥生時代後期と古墳時代～古代の集落関連の遺構を検出することが出来た。特に、円形土坑SK13出土の土器群は、弥生土器の編年的研究の基礎資料となるものである。また、古代の溝SD1は、1次調査地の溝SD1と規模・方向・出土遺物が類似するため、同一遺構の可能性が高いが、底面が全く異なる様相であり今後の調査課題とした。今後は更に周辺地の調査資料を加味し、各時代の詳細な集落構造を解明していく必要がある。

(小笠原)

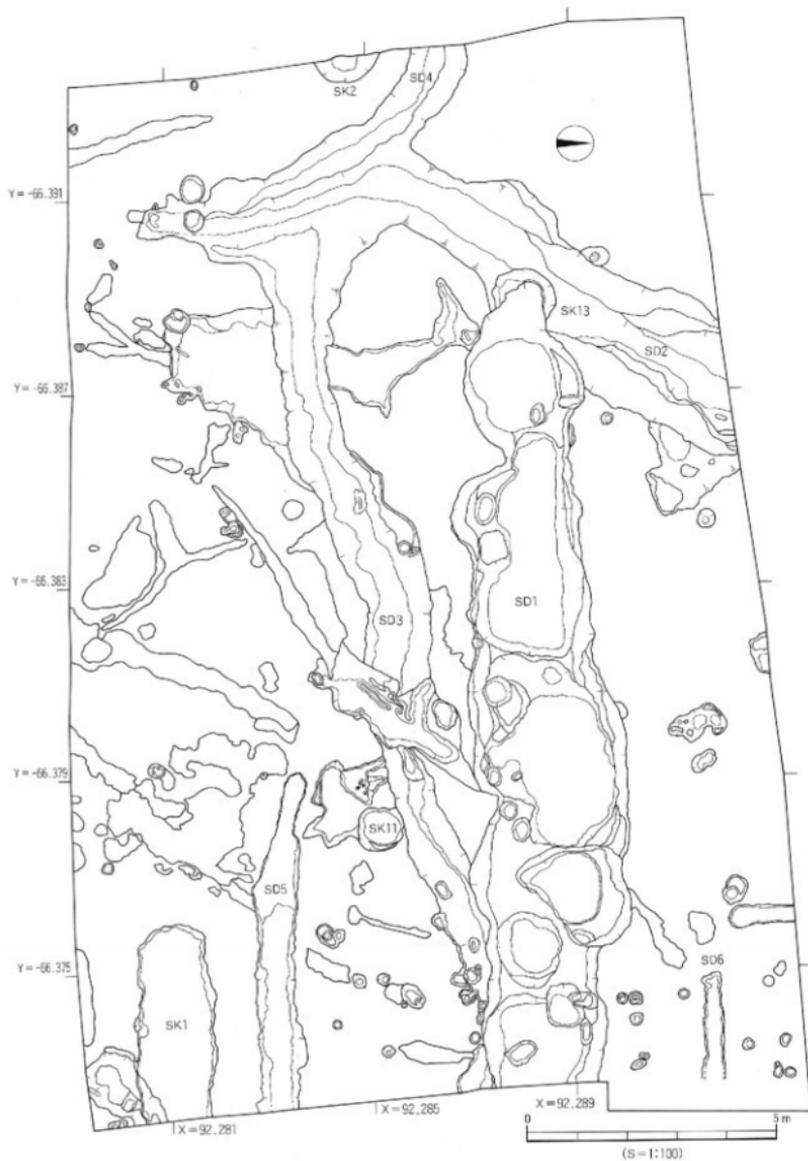


図2 遺構配置図

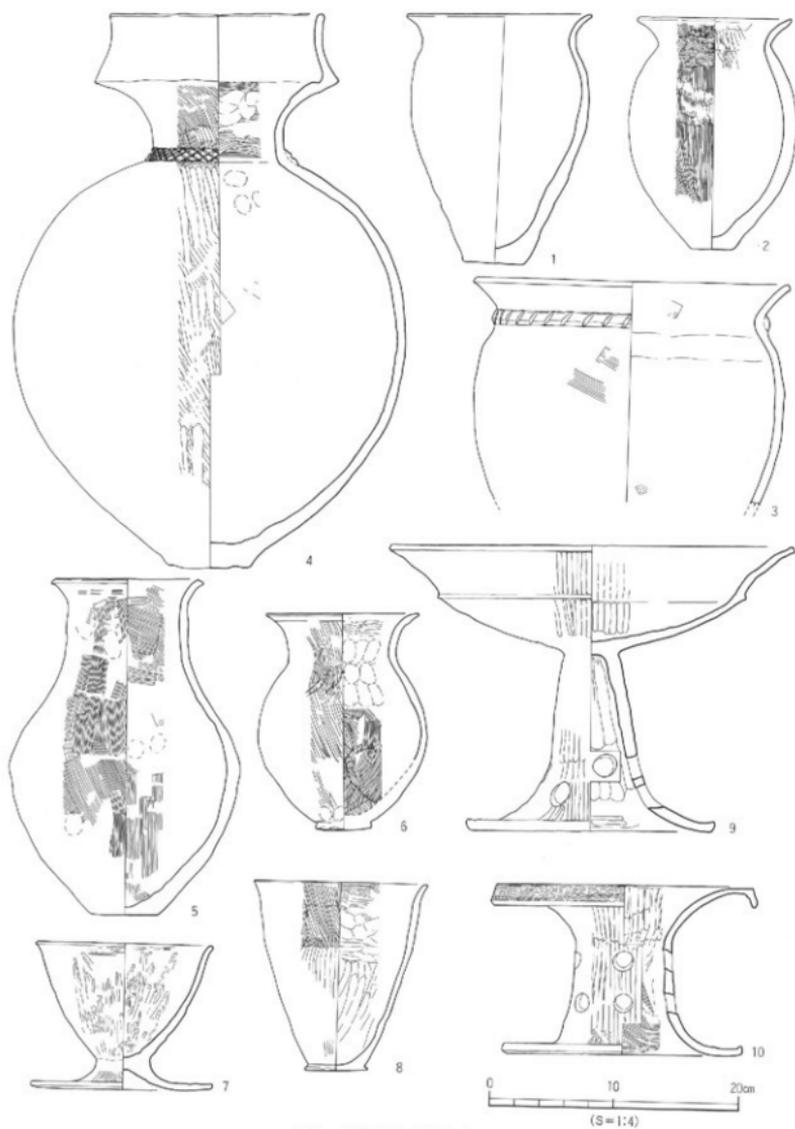


図3 S K 13出土遺物実測図



写真1 SK13遺物出土状況(南東より)



写真2 発掘状況(北より)

## 筋 違 M 遺 跡

所在地 松山市福音寺町452-1、2  
期 間 平成10年12月1日～平成11年3月31日  
面 積 349㎡  
担 当 西尾幸則・政本和人



図1 調査地位置図

経 過 本調査は、「No.116川付遺物包含地」内における宅地開発に伴う事前調査である。試掘調査の結果、溝、土坑、柱穴等の遺構と須恵器・土師器等の遺物を確認した。

当該地周辺の遺跡として、弥生時代から古代にかけての集落遺跡、筋違遺跡A～Lや、その東方には、福音小学校構内遺跡が存在している。そのため福音寺地区における、他の筋違遺跡との関連や集落の存在の確認を主目的に本格調査を開始した。

遺構・遺物 本遺跡において、古墳時代～中世の遺構、掘立柱建物址1棟、土坑5基、溝9条、柱穴287基、性格不明遺構5基が確認された。

古墳時代の遺構として、掘立柱建物址（SB1）がある。SB1は調査区西区の西部に位置する。遺構の規模は2間×2間であり、桁行3.17m×梁行2.60mを測る。各柱穴は円形または楕円形を呈し径50cm～76cm、深さ22cm～44cmを測る。柱穴埋土は、暗褐色を基調とする。遺構からは、須恵器片が出土しており、古墳時代後期の遺構と位置づけられる。

中世の遺構のなかでも注目すべき遺構は、溝（SD6）である。SD6は調査区東区の北部に位置する。東から西へと延びており、検出長は、10.6m、上場幅0.6m～2.3m、検出面よりの深さ約38cmを測る。断面形は皿状を呈し、埋土は灰褐色を基調とする。SD6の東部は直径4.2m、深さ58cmの円形の掘り方があり、そこから西へ溝が延びている。またSD6内のSX3は、幅約1.4m、検出面より深さ56cmを測る。埋土は灰褐色を基調とする。SX3の検出状況は石が投げ込まれた状態で、中層より下で、備前のすり鉢や大甕、土師器片や須恵器片などが出土し、基底部から中国製品の染め付け皿の一部が出土した。SD6からは、須恵器片、土師器片、青磁の鉢などが出土した。遺構の時期は、これらの遺物よりSD6、SX3ともにほぼ同時期の16世紀初めと推定される。

小 結 本調査により、古墳時代から中世における遺構・遺物を確認することができた。西区で検出された掘立柱建物址1棟は、古墳時代後期相当の建物と推定され、今後、周辺で行われてきている筋違遺跡の類型調査などから古墳時代の集落の様相の解明に努めたい。

東区は、近現代まで行われた土地開発に伴い、著しく改変されており、遺存状態は良好な状態ではない中で、SD6は中世の性格を知る貴重な遺構となった。このSD6は、中心やや東よりに円形の掘り方があり、水場施設のような性格を持つ遺構とも考えられ、溝を利用した配水施設の可能性も考えられる。こうした検出事例から、当地域における中世集落の様相を知る貴重な手がかりと考えられる。今後、遺構の性格等を解明していきたい。

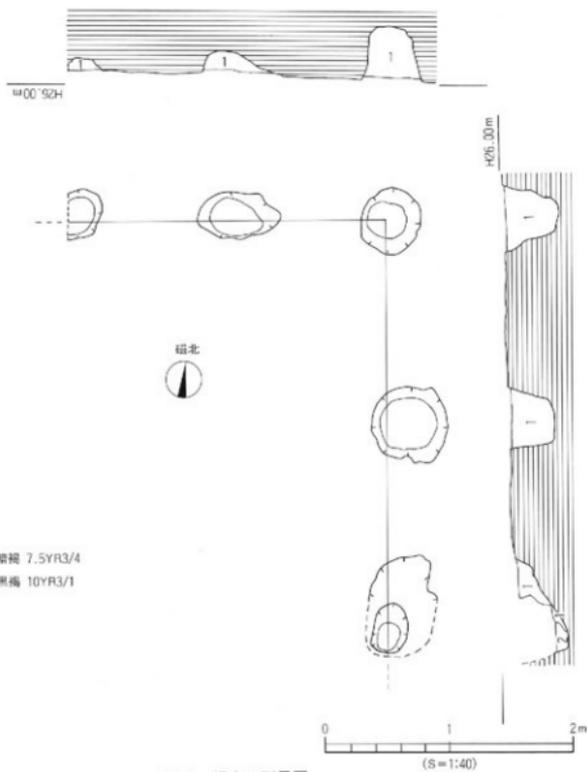
（西尾）

筋違 M 迹跡



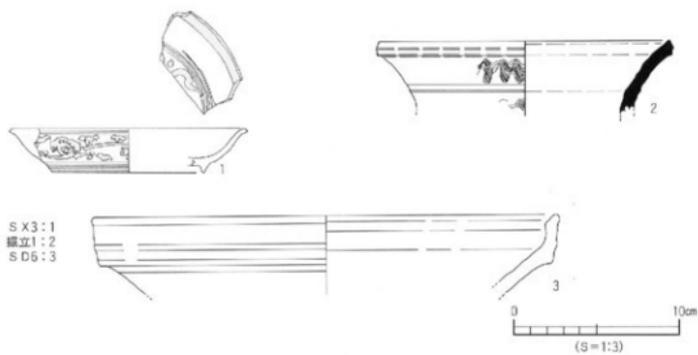
図2 遺構配置図

筋違 M 遺跡



1. 明緑 7.5YR3/4  
2. 黒褐 10YR3/1

図3 掘立1測量図



- S X3:1  
掘立1:2  
SD6:3

図4 出土遺物実測図



写真1 東区先掘状況(西より)

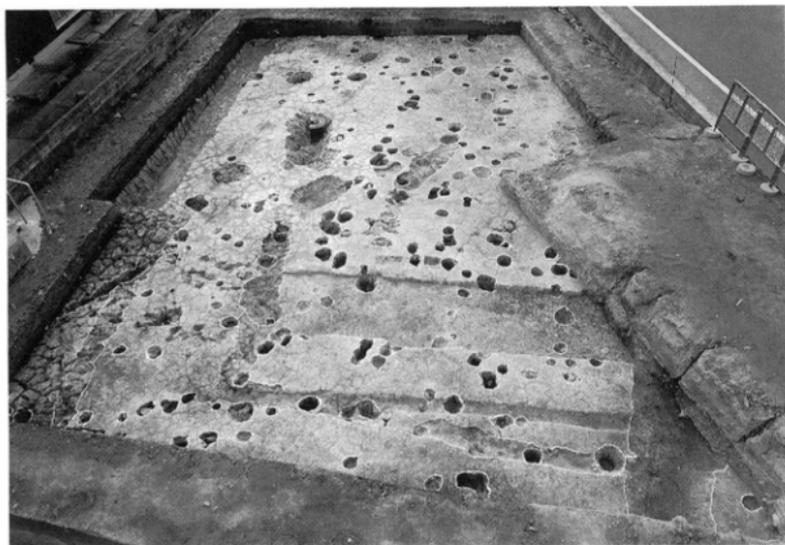


写真2 西区先掘状況(東より)

## 久米才歩行遺跡 4次調査地

所在地	松山市南久米町485-1・3・4
期間	平成10年10月1日～同年11月30日
面積	1,095m <sup>2</sup>
担当	高尾和長・加島次郎



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No126久米高畑遺物包含地」内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は、松山平野東部を西流する堀越川右岸の下流域に位置する。遺跡は標高32～33mを測る台地端に立地する。調査地の南東には堀越川と小野川によって開析・形成された来住台地がある。この台地上には縄文時代晩期以降、集落が展開することが明らかになりつつある。弥生時代前期末には大溝を伴う集落関連遺構がある。さらに古代には官衙施設が広く展開することが判明しつつあり、地方における官衙の出現を考える上で注目される。堀越川左岸では調査例が増加しているが、右岸の台地上の調査例は少数ない。久米才歩行遺跡2次調査地では、弥生時代前期末と古墳時代後期の竪穴住居址が検出され、3次調査では、古代と中世の掘立柱建物址が検出されている。

遺構・遺物 遺構は地表下0.7mの黄色土上面で検出した。検出遺構は、弥生時代、古墳時代～古代、中世の三時期に区分される。弥生時代の遺構は、自然流路1条（S R201中・下層部）である。流路は東から西に流れており、埋土から、埋没当初（下層部）は水量が豊富であったことがうかがえる。古墳時代～古代の遺構は、自然流路2条（S R101、S R201上層部）、性格不明遺構4基（S X101～104）である。S R101は北から南へ流れ、S R201に合流する。このことから、S R201の最終埋没時期が古墳時代～古代と考えられる。中世の遺構は、掘立柱建物址1棟（掘立1）、井戸1基（S E101）、溝2条（S D101・102）、櫓列1基（S A101）、土坑2基（S K102・103）、柱穴32基である。掘立1は、梁間2間、桁行3間の南北に細長い建物である。

遺物は、コンテナ13箱分が出土した。遺物の大半はS R201から出土した。弥生土器、土師器、須恵器、石器がある。弥生土器は、甕、壺、鉢、高坏で構成される。中・下層部の弥生土器は、前期末に時期比定される。相伴した石器は石斧丁、石鎌、石斧、スクレイパーで石鎌には完成品と未成品がある。石斧丁と石鎌には三波川変成岩類が用いられている。上層部からは弥生前期末の土器とともに、6世紀段階の須恵器が多量に出土した。掘立1からは土師器の三足付羽釜が出土した。

小結 本調査では、弥生時代、古墳時代～古代、中世の遺構と遺物を確認した。注目遺構はS R201である。出土遺物は、磨滅がみられないことから水流で移動したものではなく、調査地の北からの集落より投棄されたものと理解される。これは当時の景観を復元する上で好資料となるものである。さらに、これらの遺物は、該期における遺物の編年を考える上で有効な資料になるものである。石鎌は、製作工程を復元する上で、ひとつのモデルを提示できる資料として特筆される。（加島）



写真1 完掘状況（西より）



写真2 S R201完掘状況（南西より）

## シモカリヤ 下苧屋遺跡 3次調査地

松山市道「平井・水尻線」関連遺跡

所在地	松山市平井町甲2456-1外
期間	平成9年4月1日～10年10月31日
面積	16,000㎡のうち5,780㎡
担当	河野史知・相原浩二



図1 調査地位置図

経過 本調査は松山市道「平井・水尻線」道路建設に伴う事前発掘調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「90権現山古墳群」・「152平井谷遺物包含地」内にある。周辺の古市遺跡1区、下苧屋遺跡2次調査地から、弥生時代前期から古代にかけて機能していた自然流路や古墳時代の集落址、室町時代の水路を検出した。隣接する下苧屋遺跡には古墳時代後期の竪穴式住居址、土坑、溝、掘立柱建物に伴う柱穴等が検出されている。調査は古市遺跡1区、下苧屋遺跡2次調査地で検出された自然流路のつながりと、下苧屋遺跡で検出した古墳時代の集落構造解明を主目的とし調査を実施した。なお、便宜上調査区を1～6区に区分し、さらに1区は1A・1B・1C区に細分した。

遺構・遺物 基本土層は第I層造成土、第II層耕作土、第III層床土、第IV層灰黄褐色土（中世の遺物包含層）、第V層灰褐色土（古墳時代の遺物包含層）、第VI層明黄灰色土（地山）である。

調査地西側（1・2区）では竪穴式住居址7棟、掘立柱建物址5棟、土坑11基、溝9条、柱穴67基、自然流路1条、性格不明遺構6基を検出した。遺構は古墳時代後期の集落関連遺構が中心で、弥生時代中期の性格不明遺構1基、中世の掘立柱建物址1棟が含まれる。なかでも1A区SK1は多数の須恵器が密集した状態で出土した。また、2区の北側より自然流路の南岸を検出した。調査地東側（3～6区）では溝3条、自然流路1条、墓3基を検出した。溝は中近世の農耕に伴う施設と考えられる。自然流路は北岸の検出である。墓は礎が積み、板碑型の石碑を伴う。礎内より人骨の一部を検出した。石碑より、江戸時代前期に構築された成人男性と成人女性の墓が並んでそれぞれ1基ずつと、少し離れて成人女性の墓1基であることが判った。

小結 今回の調査では、弥生時代前期から中世にかけて機能していた自然流路の南・北岸の一部や古墳時代後期を中心とした集落、中世集落の一部、さらに、近世墓が検出された。自然流路は、古市遺跡1区や下苧屋遺跡2次調査地で蛇行しながら西流することが確認されており、今回の調査で2区と5区の間1つの蛇行が考えられ、当地で流路の幅は約100mと想定される。1・2区で検出された竪穴式住居址や掘立柱建物址から、下苧屋遺跡で検出された古墳時代後期の集落が、西・北側に広がることが確認できた。特にSK1は焼き葦みや焼成の違う須恵器が多数出土することから、遺物の廃棄土坑と考えられる。これは下苧屋遺跡に推測される須恵器の生産地と消費地の中継点的様相を示す資料であり、同時期にも機能していた自然流路は当集落に深く関係し、この自然流路を利用して上流の窯跡から当地に運ばれてきた可能性が高い。今回検出した3基の墓は、近世墓の構造解明における一資料となるものである。今後の課題は、自然流路の復元やその流域周辺での集落の動向を検討することにある。

(河野)

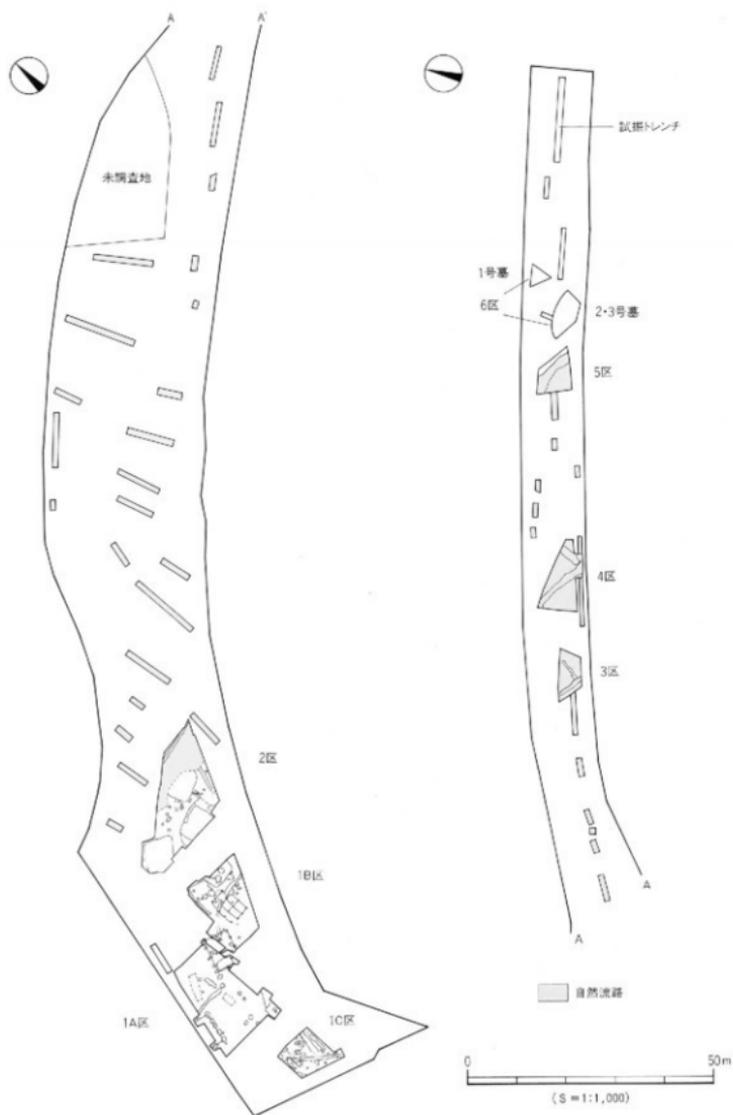


図2 調査地測量図

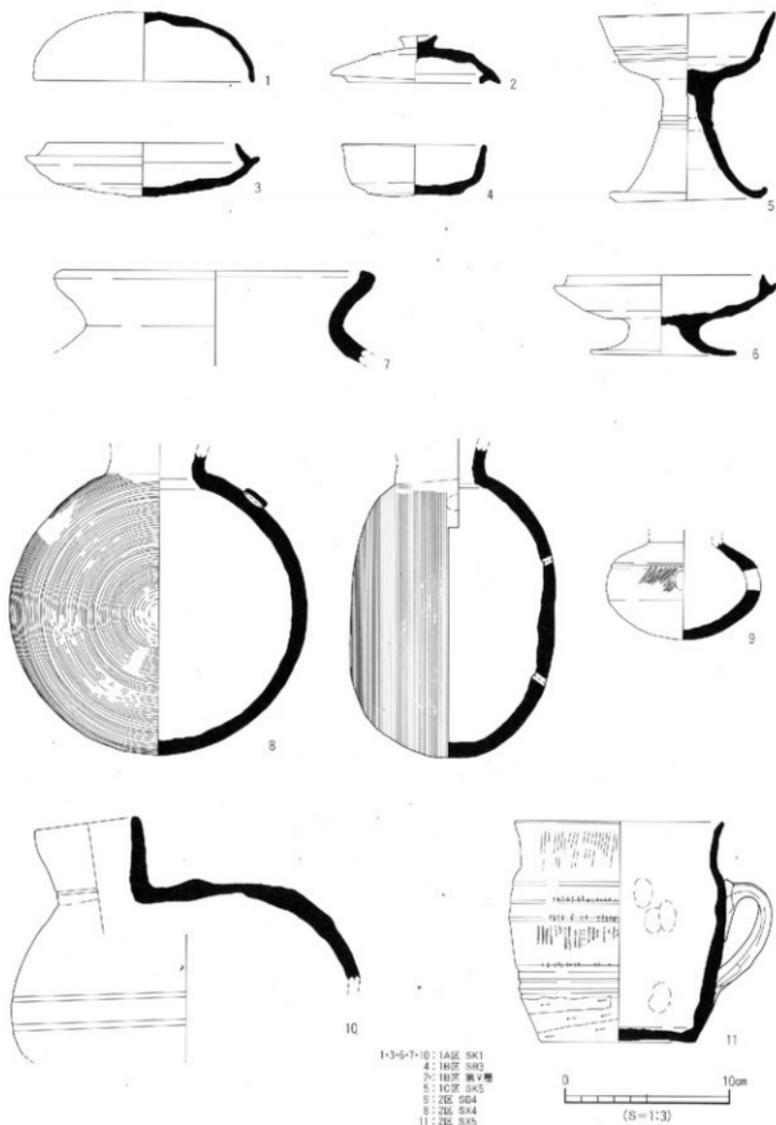


図3 出土遺物実測図



写真1 1A・1B区完掘状況(北より)



写真2 2・3号墓検出状況(北西より)

## 北梅本太尺寺遺跡

所在地	松山市北梅本町甲3489-1外
期間	平成10年4月7日～9月30日
面積	4,575㎡（1区710㎡、2区3,865㎡）
担当	相原浩二・山之内志郎



図1 調査地位位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No166北梅本遺物包含地」内における土地改良総合整備事業に伴う事前調査である。周辺の遺跡は、枝桑下池周辺で6～8世紀代の窯跡が8基以上確認されている。また北梅本悪社谷遺跡では、古墳時代と古代の遺物包含層を確認している。

本調査は、当該地区における集落関連遺構の広がり確認を主目的に本格調査を実施した。調査対象地は2か所あり、便宜上南より1区、2区とし、後者は更にA～Hの8区に区分した。試掘調査の結果から1区及び2区A～C・Gを重点的に調査を行い、2区D～F・Hは土層堆積状況を確認するためトレンチ調査を実施した。

遺構・遺物 調査地は松山平野の南東部、標高113～115mに位置する。遺構は、1区で土坑6基、溝3条、柱穴13基、石列1条を、2区で土坑8基、溝23条、柱穴6基、塚1基、石列1条、性格不明遺構21基を検出した。遺物は弥生土器・須恵器・陶磁器・瓦・石鏃などがある。以上のうち主な遺構・遺物について以下に概説する。

1区は、東から西へ緩やかに傾斜する尾根上に位置する。基本層序は、第I層：耕作土、第II層：第I層と黄色土の混合土、第III層：床土、第IV層：灰褐色シルト、第V層：旧耕作土、第VI・VII層：旧床土、第VIII層：黄色砂質土、第IX層：黄灰色微砂質土である。

調査の結果、調査地は西側部分が段カットされて上・下段の2段に分かれる。下段で検出した溝(SD2)は、弧状に張り出した段落ち部分にみられ、全長36.9m、幅20～54cm、深さ3～13cmを測る。また下段第V層からは石列を検出した。規模は、南北4.5m、東西20～30cm、高さ30cmを測り、角礫を多い部分で4段に積み上げている。局部的に構築されている。

2区は、北から南へ緩やかに傾斜する谷間に位置する。基本層序は、第I層：耕作土、第II層：床土、第III層：造成土①、第IV層：旧耕作土、第V層：造成土②、第VI層：暗褐色シルトである。

2区Gには、調査前より長さ1.8×1.0m、高さ0.3mの塚が露出しており、祠2点が各々の台石上に据え置かれていた。当区はその内部構造の解明を主目的にトレンチを設定した。調査の結果、台石の下部には掌大の礫石が、またその下部には10cm前後の礫石が積み上げられていた。

小結 本調査では、弥生・古墳時代の明確な遺構は検出できなかった。しかし、第I～III層から当該期の遺物が出土していることから、調査地と周辺には遺構の存在が考えられる。

注目される遺構としては、1区で検出した石列があげられる。同様の遺構は太山寺経田遺跡（松山市太山寺町）でも確認されており、今後は時期決定を含め用途についても再検討が必要であろう。また2区Gで検出した塚は、他の諸遺構との関連・時期比定などを、今後の課題としたい。（山之内）

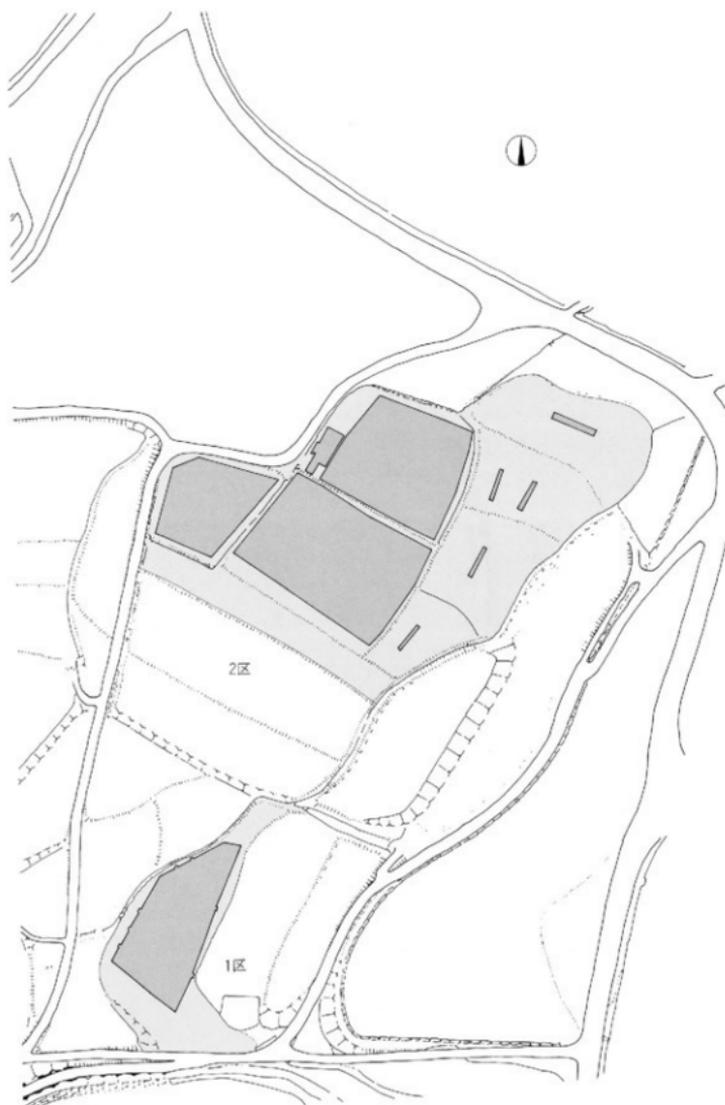


図2 調査地測量図 (S=1:1,000)

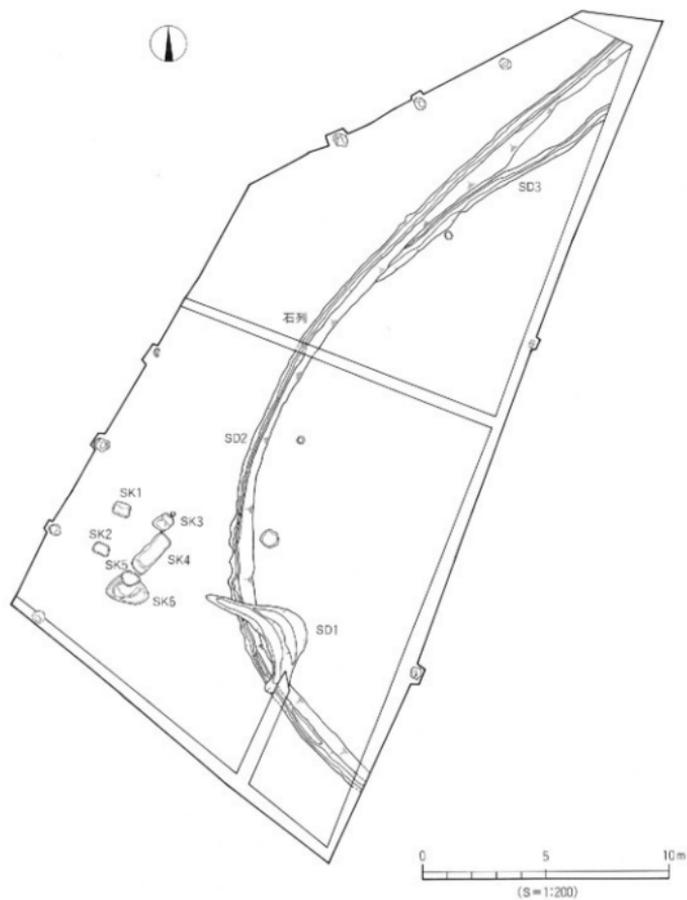


图3 1区遺構配置図



写真1 1区発掘状況(南西より)



写真2 2区発掘状況(北より)

## キレマダ 来住町遺跡 8次調査地

所在地	松山市来住町243番地、243番地の1
期間	平成10年4月16日～同年7月17日
面積	1,272㎡
担当	宮内慎一・相原秀仁



図1 調査地位置図

経過 本調査は「No.127来住庵寺跡」内における宅地開発に伴う事前の発掘調査である。調査地は松山平野の南東部、来住台地南端に位置し、標高40.6mに立地する。これまでに来住町遺跡として6次に渡り行われた調査は国道11号線の北側地域に限られていた。今回は国道11号線の南側地域におけるもので7次調査に次いで2回目の調査となる。調査は東側に隣接する7次調査において確認した古墳時代後期から古代にかけての集落関連遺構と自然流路のつながりを確認することを主目的として実施された。

遺構・遺物 調査地は調査以前は水田であった。現況では標高40.6m前後を測る。基本層位は第I層耕作土、第II層床土、第III層灰褐色土、第IV層黒褐色土、第V層黒褐色土と黄色土の混合土、第VI層黄色土である。なお、第VI層上面は最終の遺構検出面である。

遺構は主に古墳時代後期中から中世までのもので、竪穴式住居址1棟(SB1)、掘立柱建物址9棟(掘立1～9)、溝10条(SD1～10)、自然流路1条(SR1)、土坑3基(SK1～3)、ピット115基と足跡である。

遺物は遺構及び包含層中からの出土である。第V層中からは弥生土器片と石鉄が、第III層中からは主に古墳時代、第IV層中からは古代の土師器・須恵器が出土している。また、流路SR1からは完形品を含む土師器・須恵器が多量に出土しており、土製の紡錘車や移動式の甍片なども含まれている。古墳時代後期の遺構はSB1とSK1、SD12である。SB1は一辺6mを測る隅丸方形の住居址である。4本の主柱穴からなり、住居址北壁中央部にカマドを付設する。SK1は径3mを測る楕円形状の土坑で、底面より焼土と鉄鏝が出土している。

7世紀前半の遺構は掘立柱建物址7棟(掘立1・2・4～6・8・9)とSR1である。掘立は建物方位が磁北を向くもの2棟(掘立1・2)と真北を向くもの5棟(掘立4～6・8・9)とがある。建物は1×2間以上または2×2間もしくは2×3間規模のもので、柱穴掘り方はすべて円形を呈する。このうち掘立5は桁行長6.4mを測る検出した建物の中でも大型の建物址である。SR1は7次調査で検出した流路につながるもので調査地北東部から南西部に向けてやや蛇行している。

7世紀後半の遺構は溝2条(SD1・3)と足跡(足跡①)がある。SD1・3は7次調査検出の溝につながるもので、両者は東西方向にほぼ平行に走る。検出幅40～60cm、深さ10～15cm、両者の間隔は4.5m前後である。足跡①はSR1の北及び南側で検出した。足跡埋土はSD1・3と同様であることから、ほぼ同時期の遺構と考えられる。

来住町遺跡 8 次調査地

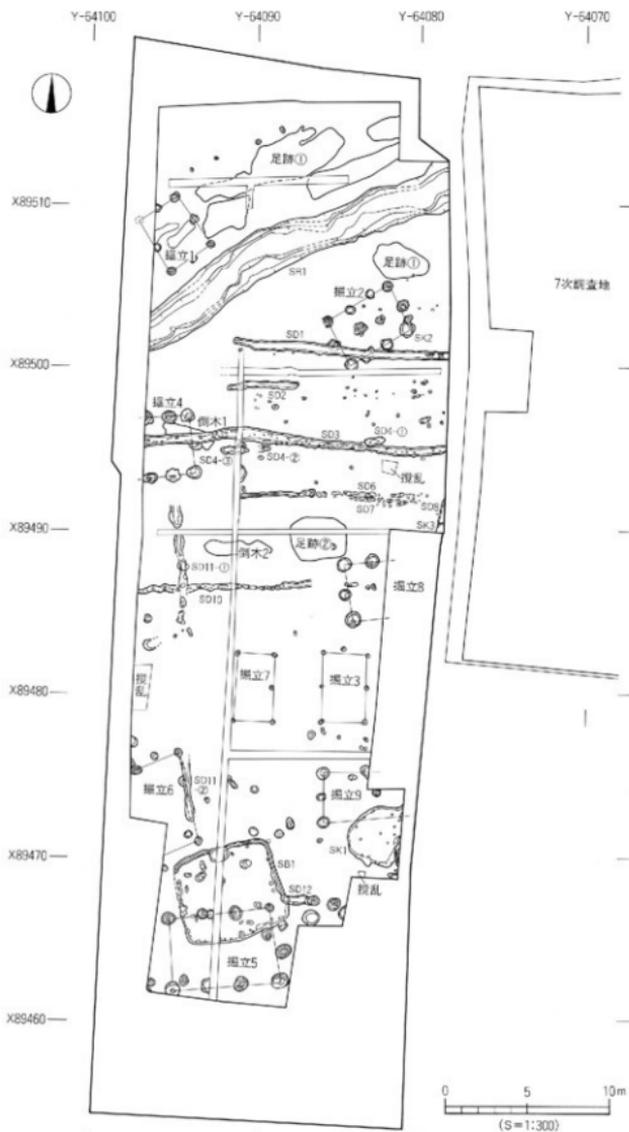


図2 遺構配置図

中世の遺構は掘立柱建物址 2 棟 (掘立 3・7)、溝 2 条 (SD 2・4) と足跡②である。掘立 3・7 は 1×2 間 (2.5×4 m) の南北棟で建物方位をほぼ真北方向にとる。柱穴掘り方は円形を呈し、埋土は灰色土である。また、足跡②は調査地中央部付近で検出され、埋土は灰褐色土である。検出時の形状から牛の足跡と考えられる。

小 結 今回の調査では来住台地南城における古墳時代後期から中世の集落様相の一端を解明することができた。狭い範囲での調査ではあるが、隣接する 7 次調査の結果をふまえると、住居形態の移り変わりや土地の利用方法の変化がみてとれる。住居形態は古墳時代後期には竪穴式住居であったものが、7 世紀になると掘立柱建物に移行する傾向がうかがわれる。また、7 世紀後半以降、古代においては建物址は検出されず、水田耕作に伴うと考えられる足跡のほか、溝が調査地内にみられるようになる。つまり、古代においては調査地は居住域としてでなく、生産を目的とした場所として土地利用されたものと推測される。今後は、調査・研究を重ね、来住台地南城における古墳時代から中世の集落構造や変遷について、詳細を解明していかなければならないであろう。(相原秀)

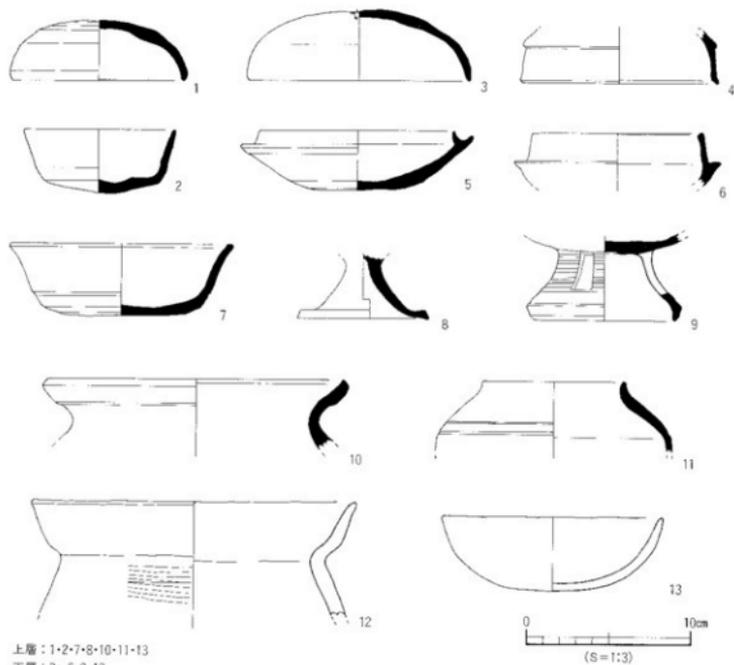


図3 SR1 出土物実測図



写真1 調査区北半部完掘状況（北より）



写真2 調査区南半部完掘状況（南より）

## 来住廃寺25次調査地

所在地 松山市南久米町729番1  
期間 平成11年1月6日～同年2月15日  
面積 約5㎡  
担当 橋本雄一・小玉亜紀子



図1 調査地位置図

経過 官衙遺跡群における主要施設のひとつである「回廊状遺構」の北側において、学術調査をおこなった。調査は国から補助を受け、宇都宮信江氏の住宅の庭先にトレンチを設定する形で実施した。該当箇所は、「回廊」の東側区画溝を北へ延長したライン上に位置し、従来から、規則的な地割りが行われていた場合には、溝や櫓などの区画施設が存在する可能性が高いと想定してきた地点にあつて

いる。調査は、官衙関連の区画施設の有無を確認する目的で実施した。  
遺構・遺物 想定された場所において、目的とする遺構である可能性も考えられる溝等の複数の遺構を検出した。ただし、小面積の調査であることに加えて、遺物がほとんど出土しなかったことから、確認は得られていないが、その可能性は高いものと考えている。

「回廊」東側区画溝の北への延長線上に位置する遺構は、トレンチ西端において検出したSX001である。遺物は弥生土器の小片以外に出土していない。埋土の性質は、官衙の段階のものと比較すると、より黒色の度合いが強く、弥生時代の後期や古墳時代の中頃の土に近い。また、遺構検出面におけるトレンチ幅が制約されたことから、遺構としての形状の確認もとれず、どのような遺構であるのかについても正確にはわからない。しかし、溝の一部である可能性は高いと考えている。

さらに、東部において、2条の浅い溝を検出した。地山面を僅かに掘り下げた程度で掘削を停止している点は、官衙を配置する際の目印として掘られた溝の特徴と一致する。2条とも、溝である点に関しては間違い無いものと考えられるが、官衙の区画溝であると断定するには至っていない。ただし、その可能性が高いと考えられるので、今後、周辺部における調査の際には注意を要する。

その他、数基の柱穴を確認した。このうち、SP3からは、弥生時代前期末から中期初頭頃の壺の底部が1点出土している。出土遺物は無いが、SP1は古墳時代以降の柱穴である可能性が高い。

小結 昨年度までの調査によって、「回廊」よりも北東に離れた地点にも、土地区画が設定され、官衙関連の施設が分布する状況が明らかになりつつある（久米高畑37次・年報X）。今回トレンチを設定した箇所は、「回廊」の東側区画溝の東辺を北に延長したライン上に位置するが、ちょうど、SX001の東辺がこれに該当する（図4）。また、このラインから東へ平行に約3m離れた箇所検出されたSD001については、「回廊」の北東に隣接する別の方一町の区画地の西辺の存在を示すものかもしれない。今後、付近における調査の際には注意を要する。

（橋本）

来往廃寺25次調査地

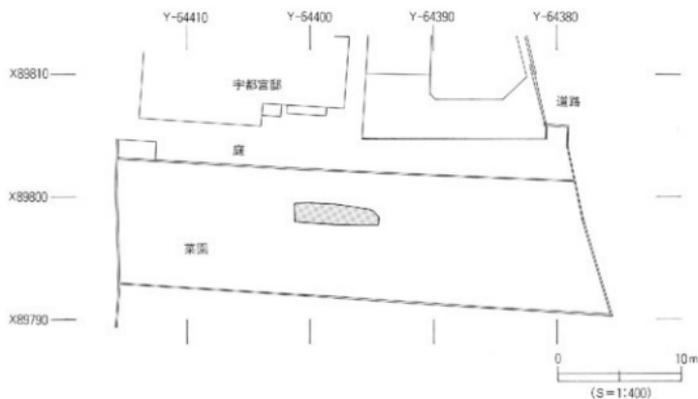


図2 トレンチ位置図

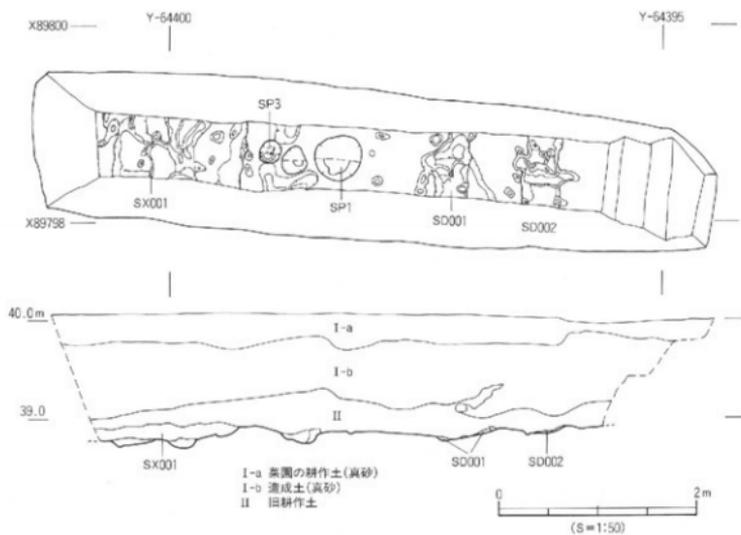


図3 遺構配置・土層断面図

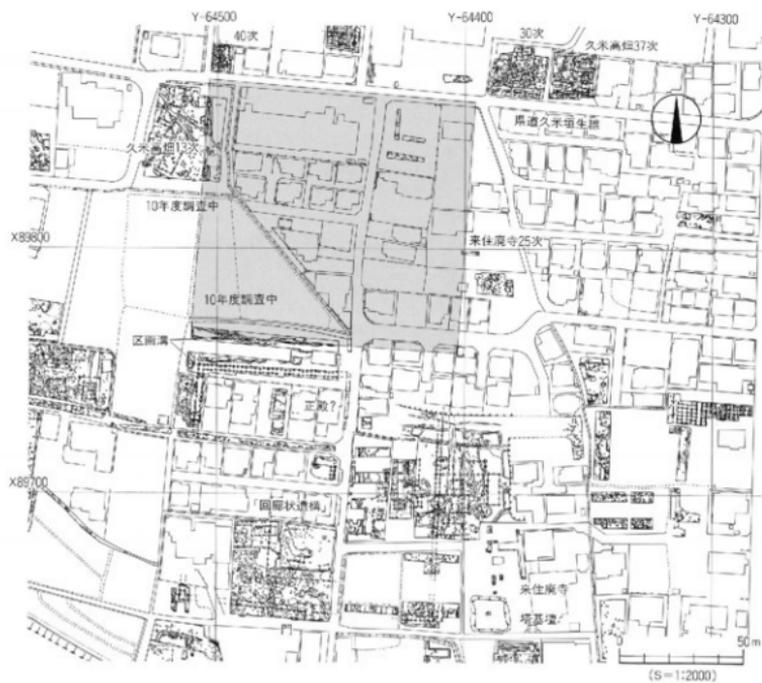


図4 官衙の地割りと調査地の関係

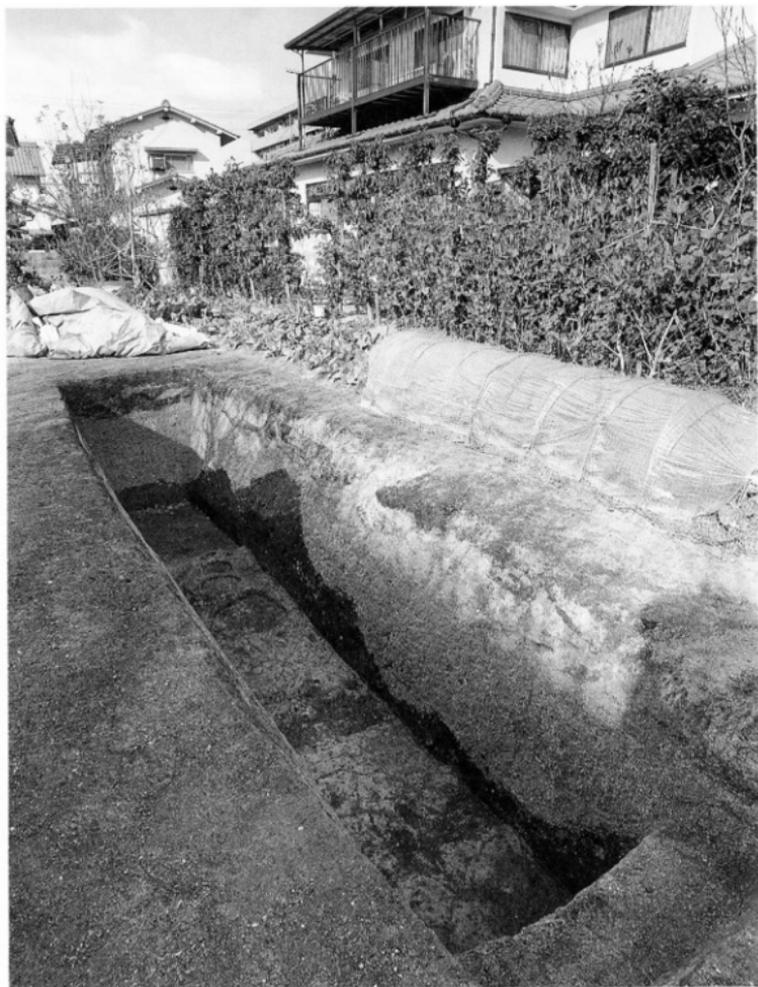


写真1 遺構検出状況(南東より)

## 久米高畑遺跡41次調査地

所在地	松山市南久米町757番
期間	平成10年12月20日～11年3月31日
面積	714m <sup>2</sup>
担当	橋本雄一・小玉亜紀子



図1 調査地位置図

経過 久米官衙遺跡群の中でも最も重要な施設のひとつである、一本柱列によって囲われている官衙施設において、学術調査を実施した。内部の建物配置を確定し、区画施設の検出を目指すことによって、区画地の形状の確認を行うことを最大の目的とした。調査は北部と南部の2回に分けて、全面的におこなった。調査地は、終了後、水田に復旧している。

遺構・遺物 官衙関連の掘立柱建物址を8棟検出した。このうち、掘立001は、この施設の中心建物である可能性を想定してきた建物群の東辺に該当すると考えられる。ただし、過去に1次調査にて確認されていない別の建物に該当する可能性もある。過去の測量に伴ういくつかの問題点の存在に加えて、1次調査の際に掘っていない箇所があることから、この建物の全体形を確定するには至らなかった。南北3間分で、約4.8mを測る。なお、掘立002は、竪穴式住居址：SB001・002に重複して建つ小型円形柱穴から構成される建物である。この建物は、1次・11次においては検出されていない。柱筋がよく一致することから、掘立001に伴って庇になる可能性も十分考えられる。南北3間分で4.74mを測る。掘立003は、1次・22次の南調査時に確認済みの建物に対応する南北棟の建物である。桁行き3間（推定）のうち、2間分（4.96m）を検出した。梁行きは2間で4.53mを測る。間仕切りを伴う内部構造であった可能性が高い。掘立004は、22次と11次の際に検出された5間×2間の東西棟の東隣に位置する建物であるが、方向性に若干のずれがある。また、規模も異なっている。東西4間（9.5m）×南北2間（4.25m）を測る。掘立007は、11次の際に一部が確認されていた建物で、東西2間（4.53m）×南北2間（3.82m）分を確認した。全体形は東西4間（推定9m）程度に復元される。掘立009と掘立008は、重複して建つ南北棟である。ともに調査地の外まで続くことから正確な形状はわからないが、008は南北3間（2間分で約4.6m）・東西2間（3.5m）、009は南北5間（4間分で9.09m）・東西2間（5.32m）を測る。小型の008が009よりも先行する。掘立005は南北棟であるが、他の建物と比較して方位が大きく異なる（N-7°-W）。この方位は、西方の久米郡衛正倉院の濠の方向性と比較的一致していることから、従来、8世紀代以降に所属するものと考えてきた。柱穴の形状に関しても、他と比較して、より方形の度合いが強く、この点に関しても新しい段階の特徴と一致している。この建物に近接する掘立009が、掘立008の建て替えであることとあわせて考えると、これら南東部に位置する建物が、他と比べて若干異なる扱いを受けていたことを示しているのかもしれない。

小 結 本調査の最大の成果は、当該区域東部における建物配置が確定したことにある。この結果、各建物が、北に位置する中心建物群を中心として、ある程度左右対称を意識して配置されている状況が明らかとなった(P59)。また、建物群の東辺の至近距離には、西辺に伴うような一本柱列は設けられていなかったことも判明した。この点に関しては、東に開口するコの字形の外郭施設であった可能性に加えて、敷地の全体形がさらに東に広がって、東西方向の長方形であった可能性などもあり得ると考えている。中心建物群(堀立001他)の構造の把握に加えて、外郭施設の形状の確認についても、今後に残された課題となった。(橋本)



図2 遺構配置図

久米高畑遺跡41次調査地

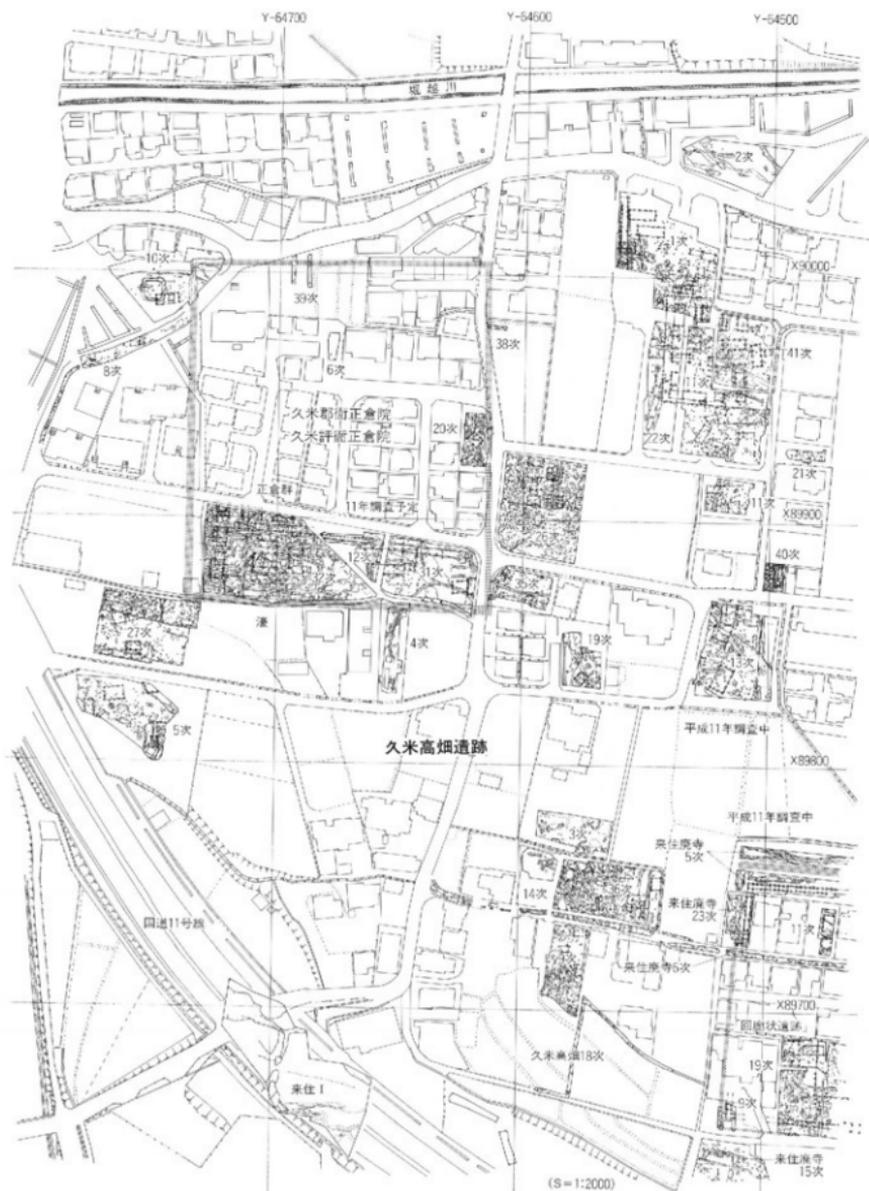


図3 久米高畑遺跡主要部



写真1 2区先掘状況(東より)



写真2 掘立004全景(東北東より)

## 久米官衙遺跡群～平成10年度の調査成果～

はじめに 平成10年度に久米官衙遺跡群において行われた本格的な発掘調査は、民間開発を含めて計4件にとどまった。このうちの2件は、開発行為に伴わない学術目的の調査である。そのうち、米住庵寺25次調査では、平成9年度の「年報X」において指摘した事項に関連する可能性がある遺構（区画溝）を検出した。これらの遺構は、「回廊状遺構」の北に隣接する別の一町規模の官衙施設の存在を裏付ける有力な証拠と成る可能性もあり、注目される。平成11年度中に、当該区域において複数の発掘調査が予定されていることから、今後の展開が期待される。

今年度の調査の中で特に重要なものは、久米高畑遺跡41次における学術調査である。この調査によって、この区域における官衙関連建物の配置が確定した。各建物の概要については、既に報告した通りであるが、過去の数次の調査成果とあわせて、この施設の内容を簡単に整理しておく。

施設の立地 一辺約43m程度の一本柱列によって、正方形に区画されていると考えられてきたこの施設については、仮に「久米評衙評庁院」、あるいは「久米評衙」の中核施設ではないかと考えてきた（年報Xほか）。まず、この施設の立地状況について確認する。

この施設は、官衙遺跡群の背後を西流する堀越川に近接した段丘の北辺に立地している。西100mには、濠によって囲われた「久米都衙正倉院」と、これに先行する段階の正倉施設が存在する。また、南200mには、「回廊状遺構」と呼ばれる一町規模の特異な施設が位置している（図3）。さらに南東方向には、溝や堀に面した官衙関連の建物多数が確認されており、政庁と正倉院の周辺を様々な関連施設がとりまく状況が明らかになりつつある。なお、標高は37～38m程度を測り、微高地上に立地する官衙遺跡群の中でも、最も高い場所に位置している。

建物の配置 久米高畑1次・11次・22次・41次の各調査によって、建物の規模と配置が明らかになったが、ここでは、仮の通し番号を付けて確認する。なお、現時点において、同一建物の一部であることが未確定の建物については、個別に番号を付す形をとる。

まず、①～④は、両隣に規模と形状が似かよった⑤と⑥が位置することなどから、この建物群における中心的な建物であろうと考えている。①が古く、②が後出することは確定済みであるが、②と③の関係については確定していない。また、④が独立した建物になるのか、あるいは③の構造と関わりがあるのかについても、現状では判然としない。

このように、中心建物群の箇所については、今後課題を残す結果となった。しかし、この地点に繰り返し南北3間の構造の建物が建てられていた事実は、この場所が、施設の中において重要な役割を担っていたことの現れであろうと考える。

なお、⑦については、本文中においても触れたとおり、この建物群の中では、若干時期が異なる可能性があると想定している。よってここでは、この他の建物について、まとめて検討しよう。

中心建物群の様子と⑫・⑬の重複状況に加えて、⑬と⑭、⑬と⑮などの互いに近接したあり方から、数次に渡る建物の建て替え・追加の結果、このように密集した建物配置が成立したと想定している。重複関係になく、一見すると同時併存の可能性のある建物についても、段階設定が可能かもしれない。このように考えるときに参考になるのが、各建物の柱筋のそろう方である。例えば、⑤については、②と併存するのではなく、北壁の柱筋が揃う①との関係が深いと考える。⑦の東辺は①の西辺とよく



図1 官舎の建物配置

一致するが、②とは対応していない。⑨の東辺は、①ではなく②の西辺と一致する。⑬については、⑩との併存はあり得ないが、その北辺は⑨の南辺と揃っている。⑧の西辺と③の東辺はよく一致している。総合すると、多くの建物は、複数存在する中心建物のうち、いずれかと対応関係にあることを指摘できる。

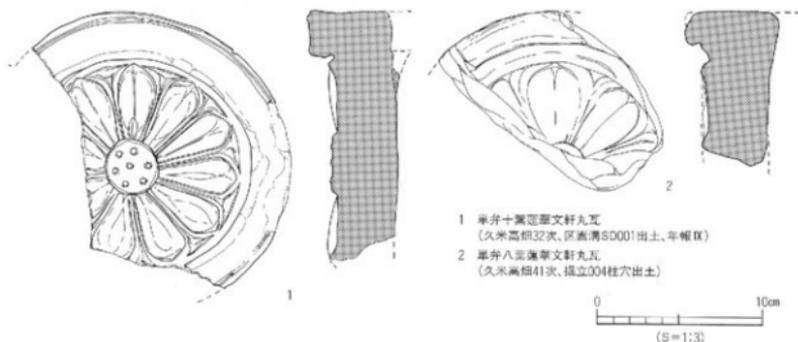
建物の配置状況を評価する上で重要なことのひとつに、建物群の西辺ならびに東辺が直線状に揃うことをあげることができる。中心建物群から見て左右の建物は、必ずしも同等の規模で対称の配置がなされたものとは言えないが、建物を配置する区域が明確に意識されている点は重要である。

区画施設 従来、この施設は、一辺約43m規模の一本柱列によって、正方形に区画された形状であると想定してきた。ただし、一辺の長さがわかっていたのは、区画の西辺についてのみであった。北辺については、その一部しか調査されておらず、南辺に関しては南西角から東へ約38mの地点で途切れる状況が確認されていた。これについては、後世の水田開発に伴って、遺跡の東部がより激しく削られた結果であると解釈してきた。しかし、今回の調査によって、建物群の東限の位置が南柱列の途切れ箇所とうまく対応することから、柱列は当初から、この位置までしか設けられていなかった可能性もある。したがって柱列は、建物を建てるための東西約30m・南北約38.5mの長方形の区域を囲う目的で設置されたと理解される。ただし、建物群東辺に関して、そのすぐ東に南北方向の柱列が存在するわけではない。西辺については柱列が存在するものの、東辺には当初から設けられていなかったと考えられる。したがって、東側に開口する逆コ字形の一本柱列によって区画された施設であった可能性もあり得る。

出土遺物 掘立004 (⑧) のSP11の柱を固定した土から、単弁八葉蓮華文軒丸瓦の破片が1点出土した。当遺跡群においては、過去の調査において少量の単弁十葉蓮華文軒丸瓦は出土しているが、八葉のものは初めてである。山田寺系軒丸瓦をまねて作った摂津四天王寺の十葉の流れを組むこの瓦に加えて、今回、八葉のものが確認されたことは重要である。また、当遺跡群内における主要遺構における遺物の出土状況に照らしても、建物の柱穴からこの種の瓦が出土した例は無く、極めて重要である。この瓦の存在から、掘立004 (⑧) の所属年代は、概ね7世紀の中頃を上限とする時期であることがわかる。

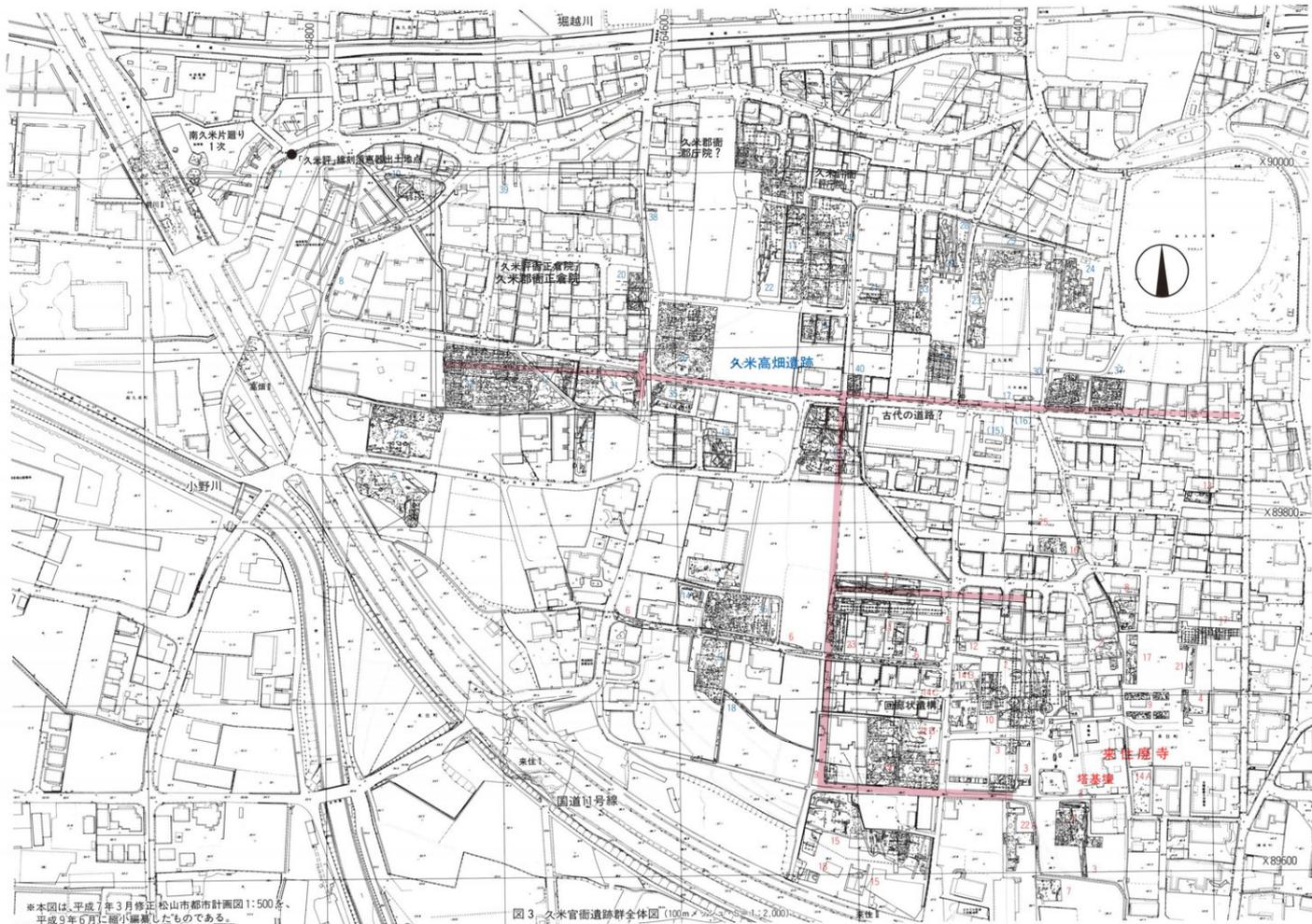
まとめ 各建物の柱筋の揃い方を参考にして、複数の段階を設定することは効果的な手法であると考えられるが、細分するとますます、左右対称の建物配置とは呼べない状況になる。また、東西棟主体であることを考え合わせると、官衙の政庁やそれに近い性質の施設ではなく、正倉院に近い機能を果たしていた可能性も考えられる。ただし、当遺跡群においては既に新旧2段階にわたる正倉院の存在が知られている(年報X)。したがって、これらの建物が倉代として使用された屋であったと仮定した場合、中に納められた品物がいかなる物であったのか、問題になるであろう。正倉院の倉代が、架間3間の構造であった点と異なっていることから、倉代ではなく、官衙の雑務を執り行っていた施設ではないかと考えておきたい。

(橋本)



- 1 単弁十葉蓮華文軒丸瓦  
(久米高根32次、区画溝SD001出土、年報X)
- 2 単弁八葉蓮華文軒丸瓦  
(久米高根41次、掘立004柱穴出土)

図2 軒丸瓦実測図



※本図は、平成7年3月修正松山市都市計画図1:500を、平成9年6月に縮小編集したものである。

図3 久米官街遺跡群全体図(100m×100m縮尺1:2,000)

## II 平成10年度

### 松山市埋蔵文化財調査関係資料

## 松山市埋蔵文化財調査関係資料

### 例 言

1. 本編は、松山市教育委員会文化教育課・松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施した埋蔵文化財確認調査資料である。
2. 今回は平成10年度(申請番号1号～482号、平成10年4月1日～平成11年3月31日迄)の資料を取り扱う。なお、平成9年度以前の資料については、『松山市文化財調査年報Ⅰ(昭和60～61年度)』、『同年報Ⅱ(昭和62～63年度)』、『同年報Ⅲ(平成元年～2年度)』、『同年報Ⅳ(平成2年～3年度)』、『同年報Ⅴ(平成4年度)』、『同年報Ⅵ(平成5年度)』、『同年報Ⅶ(平成6年度)』、『同年報Ⅷ(平成7年度)』、『同年報Ⅸ(平成8年度)』、『同年報Ⅹ(平成9年度)』を参照されたい。
3. 資料作成(一覧表及び付録図)は、栗田正芳、山邊進也、堀内哲也、阿部研三が行った。
4. 表中の番号は、埋蔵文化財確認願いの申請番号に順するものである。また、本格調査については、平成10年度に行った調査を取り扱う。
5. 付録図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(三津浜・松山北部・郡中・松山南部)を使用し、図は縮小して7万5千分の1になっている。
6. 一覧の略記について
  - ①面積：調査対象面積、小数点以下四捨五入。②標高：地表面、( )は調査地内平均値。
  - ③調査目的：公＝施主公共団体、私＝施主一般。④調査方法：空白は未調査等。

表1 平成10年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧

No.1

No.	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
1	平井町甲3157-66	223	48.14	私	試掘			
2	小坂4丁目31-1,32 1・3	648		私	既済			S50 10にて調査済 H8-82にて試掘済
3	朝日ヶ丘2丁目1451	360	37.23	私	試掘			
4	鷹子町35	367	43.09	私	試掘			
5	桑原6丁目724-4・12	168		私	既済			H8-44にて試掘済
6	辻町213	1,193	14.60	私	試掘			
7	西い井町29-5	143		私	既済			H6-58にて試掘済
8	天山町14の一部	159	22.80	私	試掘			
9	山内町874-3	514	2.70	公	試掘			
10	西い井町74-6	103		私	既済			H8-43にて既済済
11	北斎院町310 1・2	178		私	既済			H9-100にて試掘済
12	東垣生町880-1外	1,680	3.60	公	試掘			
13	中村2丁目54-1外4筆	1,675		私	既済			本格調査済 中村松山遺跡2次調査
14	小坂4丁目283-8	130		私	既済			H8-171にて試掘済
15	朝日ヶ丘2丁目1459 9	190	30.54	私	試掘			
16	播磨寺町430-1	401	29.54	私	試掘	土坑、柱穴	土器、瓦器	本格調査要

## 松山市埋蔵文化財調査関係資料

No. 2

No.	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
17	山西町819	454	3.51	私	試掘			
18	古三津3丁目878-27	152		私	既済			H8-120にて試掘済
19	枝松5丁目123-4外9筆	1,684	26.89	私	試掘			
20	西石井町74-5	120		私	既済			H8-431にて試掘済
21	松木2丁目10-10	126		私	既済			H1-129にて試掘済
22	南久米町737-1・2	533	39.57	私	試掘			
23	北斎院町202、203	468	9.47	私	試掘			
24	福音寺町563-1	235	24.89	私	試掘			
25	木原町2丁目1-36	231		私	既済			H9-256にて試掘済
26	東方町	17	59.00	公	立会			
27	東野4丁目甲556-2	158		私	既済			H7-344にて試掘済
28	東野5丁目835-17	173		私	既済			本場調査済 東野お茶屋台遺跡5次調査
29	東野5丁目835-14	168		私	既済			本場調査済 東野お茶屋台遺跡5次調査
30	東野5丁目甲835-11	175		私	既済			本場調査済 東野お茶屋台遺跡5次調査
31	東野5丁目甲835-7	204		私	既済			本場調査済 東野お茶屋台遺跡5次調査
32	東野5丁目甲835-16	154		私	既済			本場調査済 東野お茶屋台遺跡5次調査
33	東野5丁目甲835-10	327		私	既済			本場調査済 東野お茶屋台遺跡5次調査
34	東野5丁目甲835-6	157		私	既済			本場調査済 東野お茶屋台遺跡5次調査
35	東野5丁目甲835-15	195		私	既済			本場調査済 東野お茶屋台遺跡5次調査
36	南久米町776-1・6	260	36.90	私	試掘			
37	北斎院町253-12・13	216		私	既済			
38	久万ノ台1023-195筆、農道分	3,875	(21.60)	私	試掘			
39	火山3丁目6-14の一部	131	18.94	私	試掘			
40	清水町2丁目4-1	113	23.79	私	試掘			
41	岩崎町2丁目469-17	60	38.30	私	試掘			
42	桑原7丁目449-1・6・8	805	31.80	私	試掘			
43	別府町286-2	247	6.60	私	試掘			
44	北斎院町382-1	82	9.99	私	試掘			
45	南久米町485-3・4	591	34.10	私	試掘	柱穴	土師器	本場調査済 久米才歩行遺跡4次調査
46	南久米町485-1	504	(33.05)	私	試掘	柱穴、溝	土師器、須恵器	本場調査済 久米才歩行遺跡4次調査
47	西石井町77-12	116		私	既済			市教育委員会にて処理
48	今在家町294-2	163		私	既済			H8-389にて試掘済
49	清水町2丁目6-7・8	340	23.10	私	試掘			
50	山越6丁目3-6	238	17.62	私	試掘			
51	南江川5丁目1552外5筆	930		私	既済			H1-4、H5 100、 H8-338にて試掘済
52	安城寺町1591-3	103	3.58	私	試掘			
53	福音寺町406-11	149		私	既済			本場調査済 藤瀬K遺跡
54	山越3丁目14-42	345	20.50	私	試掘			
55	桑原2丁目	90	37.40	公	立会			
56	南梅本町乙67、69-3	980	96.16	私	試掘			

No.	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
57	来住町234先	481		私	公			
58	祝谷5丁目720 2・3・5	605	51.80	私	試掘			
59	南江2丁目640-6外3筆	391	14.63	私	試掘			
60	新浜町1093-1の一部	231	5.42	私	試掘			
61	福音寺町746-7	353	23.54	私	試掘			
62	福音寺町750、751	3,128		私	既済			H7-13にて試掘済
63	平井町甲1337-7	129		私	既済			H6-43にて試掘済
64	石風呂町34-2	209		私	既済			本格調査済 跡ヶ峠遺跡
65	朝美2丁目1117-4	255	20.06	私	試掘			
66	北斎院町464-2	126		私	既済			H9-5にて試掘済
67	南土居町415	395	36.42	私	試掘			
68	校松5丁目75-7	196	28.12	私	試掘			
69	道後緑台217-2	248		私	既済			H9-216にて試掘済
70	来住町1133-2・13	282	37.30	私	試掘	包含層	土師器	本格調査要
71	朝生田町3丁目473-1	554	18.80	私	試掘			
72	清水町2丁目20-13	202	23.00	私	試掘			
73	東山町297-5	399		私	既済			H8-186にて試掘済
74	道後緑台217-3	331	33.97	私	試掘			
75	安城寺町1117-1	409	3.67	私	試掘			
76	久米窪田町1131-1・2・3	812	43.50	私	試掘			
77	東雲町6-7	587	(31.99)	私	試掘			
78	桑原1丁目793-1の一部	468	36.62	私	試掘			
79	久米窪田町1150-3	236	44.76	私	試掘			
80	東方町甲686-1外1筆	226	59.88	私	試掘			
81	東野5丁目甲898-98	269	62.80	私	試掘			
82	古三津3丁目928-37	170	10.20	私	試掘			
83	南久米町664-2	169	40.80	私	試掘			
84	鷹子町185-1	1,232	46.88	私	試掘			
85	富田町107-2・4	597	16.11	私	試掘			
86	久万ノ台770	195	14.84	私	試掘			
87	南久米町390-1外1筆	465	37.99	私	試掘			
88	小坂4丁目39-1外2筆	2,514	(27.90)	私	本格	溝、柱穴	弥生土器	本格調査要
89	西石井町3-3・6	369	22.20	私	試掘			
90	東山町64-1外4筆	1,716	14.30	私	試掘			
91	今在家町437-3・4	456	30.80	私	試掘			
92	福音寺町568-5外1筆	130	24.27	私	試掘			
93	来住町470-3	136	40.35	私	試掘			
94	福音寺町697-7	313		私	既済			H7-112にて試掘済
95	別府町乙7-65	404		私	踏査			
96	桑原6丁目	100	(35.70)	公	立会			

No.	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
97	桑原2丁目	140		公				
98	北斎院町1042-26	151	7.71	私	試掘			
99	山西町450	445	12.00	私	立会			市教育委員会にて立会
100	西石井町43-1、42	677	21.88	私	試掘			
101	福音寺町568-6外1筆	198	24.27	私	試掘			
102	祝谷6丁目1039-1	274		私				
103	山西町879-10	198		私	既済			H9-179にて試掘済
104	福音寺町560	519		私				
105	祝谷2丁目344-5	105	48.17	私	試掘			
106	辻町46-1・2	1,402	(14.70)	私	試掘			
107	小坂2丁目472 6・9	1,195	(29.49)	私	試掘	柱穴、溝	水石土器、磁器類	本格調査要 H10-189・185にて再中継
108	米津町	71	(38.83)	公	立会			
109	小坂5丁目316-6	168	24.16	私	試掘			
110	平井町1370-7	144		私	既済			H9-146にて試掘済
111	南久米町487-2	287	34.30	私	試掘	柱穴、土坑	土器類、磁器類	本格調査要
112	権規町乙168-3	339		私	踏査			
113	南久米町380-5	237	38.65	私	試掘			
114	南久米町338-3・6	228	36.50	私	試掘			
115	木原町2丁目1-37	83	22.00	私	試掘			
116	南江戸6丁目1317	456	12.95	私	試掘			
117	枝松6丁目95 11	133		私	既済			H9-41にて試掘済
118	松米2丁目38-1	127		私	既済			H9-327にて試掘済
119	朝生田町480	623	18.80	私	試掘			
120	鉦原2丁目甲278-7	185	22.12	私	試掘			
121	平井町甲2240-2	129		私	既済			H9-59にて試掘済
122	南久米町227-4	94		私				
123	道後北代6 6-2	106	31.10	私	試掘			
124	道後北代6-6-1	340	31.11	私	試掘			
125	朝美1丁目1366-4外1筆	782		私	既済			H8-95にて試掘済
126	北久米町531 2、532-1	547	31.90	私	試掘			
127	久米窪田町899-5	295	45.40	私	試掘			
128	北井門町278-7	165	23.36	私	試掘			
129	内宮町乙378-2	100	13.79	私	試掘			
130	久米窪田町665-1	265	46.40	私	試掘			
131	北吉田町1346	188	4.87	私	試掘			
132	古三津3丁目1610-10・16	172		私	既済			H6-67にて試掘済
133	米住町887-11	140		私	既済			本格調査済 久米窪田町899-5調査 H9-330にて試掘済
134	福音寺町396 5	180		私	既済			
135	北斎院町385-9	126	9.80	私	試掘			
136	道後今市998-14・15の一部	28		私	試掘			市教育委員会にて試掘

## 松山市埋蔵文化財調査関係資料

No.5

No	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
137	平井町2165-20	187	61.72	私	試掘			
138	山西町874-1	382		私	既済			H9-49にて試掘済
139	南江(4)丁目948-8	166	13.15	私	試掘			
140	古三津3丁目878-34	150		私	既済			H8-120にて試掘済
141	道後橋又1148-1・2	700	28.00	私	試掘			
142	北久米町860-14外1筆	826	(29.35)	私	試掘			
143	平井町133の一部	100	81.02	私	試掘			
144	吉藤5丁目251-4外6筆	523	27.90	私	試掘			
145	北梅本町乙196	310	119.50	私	試掘			
146	桑原1丁目994-9	139		私	既済			H8-406にて試掘済
147	道後橋又1145	816	28.10	私	試掘			
148	道後今市10-33	368	33.29	私	試掘			
149	水堀町1035、1036	205		私	既済			
150	煙寺町乙117-2	912	77.77	私	試掘			
151	北斎院町235-3	138		私	既済			H9-186にて試掘済
152	北斎院町235-4	139		私	既済			H9-186にて試掘済
153	平井町甲236-5	490	87.28	私	試掘			
154	道後音多町1327外3筆	140	34.40	私	試掘			
155	平井町甲1416	340	68.40	私	試掘			
156	祝谷町1丁目395-17	115	62.00	私	試掘			
157	山西町874-3	191		私	既済			H10-94にて試掘済
158	山西町874-4	165		私	既済			H10-94にて試掘済
159	山西町874-5	158		私	既済			H10-94にて試掘済
160	小坂2丁目472-6	781		私	既済			本館調査、H9年10月内閣 小坂ヒコノテ遺跡調査
161	別府町667-4	1,377	3.40	私	試掘			
162	南久米町437-2	582	35.80	私	試掘			
163	福音寺町723-2	95	22.97	私	試掘			
164	山越3丁目754-1	425	20.30	私	試掘			
165	東野3丁目乙201-10	7,348	(91.36)	公	試掘	古墳	土師器、瓦器	本格調査要
166	久米窪山町872-4・5	717	46.60	私	試掘			
167	北古田町乙108-3外2筆	676	4.81	私	試掘			
168	今在家町192-2	527	31.50	私	試掘			
169	祝谷6丁目1018-3の一部	198	60.78	私	試掘			
170	南江内丁目630-30一部1筆	1,076	(13.42)	私	試掘			
171	南久米町629-10	137		私	既済			H9-362にて試掘済
172	窪野町乙5-17	145	111.47	私	試掘			
173	山越2丁目52-7	143		私	既済			H8-216にて試掘済
174	平井町2273	7,325	58.73	私	試掘	柱穴、溝	土師器、瓦器	本格調査要
175	桑原6丁目724-10	191		私	既済			H8-44にて試掘済
176	枝松6丁目95-9	104		私	既済			H9-41にて試掘済

No	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
177	立花6丁目341-39	90	20.70	私	試掘			
178	比町550-10	165	14.90	私	試掘			
179	桑原4丁目18-21	176	35.49	私	試掘			
180	福音寺町560-1	209	24.80	私	試掘			
181	南江戸4丁目1251-5	179	11.43	私	試掘			
182	船原1丁目甲80-3	138		私	既済			H9-312にて試掘済
183	南梅本町甲417外22番	16,121		私	既済			H1-35、M3 江の浦町町本町調査区、又神山古墳
184	来住町601-1の一部外1草	63	41.70	私	試掘			
185	小坂2丁目472-9	413		私	既済			H10-167の内中環 本取掘調査
186	小坂5丁目	180		公				
187	西石井町76-4	172	20.87	私	試掘			
188	今在家町278	424	30.39	私	試掘			
189	西石井町219	50	20.60	私	試掘			
190	高砂町2丁目4-7	99	22.12	私	試掘			
191	古三津3丁目821-14	184	8.88	私	試掘			
192	高岡町乙25-42	312	(40.58)	私	試掘			
193	桑原1丁目9-9	424	38.30	私	試掘			
194	道後緑台6-32	63	37.08	私	試掘			
195	鷹子町乙328	253	95.61	私	試掘			
196	北斎院町464-3	149		私	既済			H19-5にて試掘済
197	久乃ノ内768 1、765	365		私	既済			H9-2にて試掘済
198	北斎院町342-2	153	10.35	私	試掘			
199	北井門町280	1,409	23.00	私	試掘			
200	北井門町396 8	185		私	既済			H9-384にて試掘済
201	祝谷東町乙712-1外	1,379		私	踏査			
202	道後緑台357-1、358-1	582	41.32	私	試掘			
203	来住町778	1,053		私	既済			H9 343にて試掘済
204	平井町甲2062-2	499	(61.58)	私	試掘			
205	祝谷2丁目344-7・10	169	46.90	私	試掘			
206	南江戸6丁目1624-6	495		公	既済			H2 37にて試掘済
207	道後一万791-1	305	33.03	私	試掘			
208	石風呂町甲1079	112		私	既済			H2-29にて試掘済
209	来住町1132、1138-2	608		私	既済			H9 276にて試掘済
210	内宮町906	38		私	踏査			
211	清水町1丁目7-12・14	120	25.32	私	試掘			
212	高砂町2丁目2-10	427	22.43	私	試掘			
213	清水町2丁目19 2・12	166	22.63	私	試掘			
214	古三津3丁目878-38	127		私	既済			H8 120にて試掘済
215	枝松5丁目77-2	469	28.19	私	試掘			
216	道後一万777 1・10	410	31.96	私	試掘			

## 松山市埋蔵文化財調査関係資料

No. 7

No	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
217	古三津3丁目322外6筆	5,841	9.10	私	試掘			
218	小坂4丁目282-4	114	25.50	私	試掘			
219	別府町386-1の一部外1筆	405	4.63	私	試掘			
220	今在家町35 1	500	31.90	私	試掘			
221	末伴町242-1	97		私	既済			
222	朝美1丁目1259-1	236	14.81	私	試掘			H9-53の内申請 本格調査費
223	平井町甲1082 1	454	74.18	私	試掘			
224	西石井町76-6	85		私	既済			H10-187にて試掘済
225	西石井町76-7	85		私	既済			H10 187にて試掘済
226	平井町甲1053-1先外	1,450	74.88	公	立会			
227	平井町甲372-2先外	900	(84.88)	公	立会			
228	東本1丁目102-1	397	32.70	私	試掘			
229	廣子町168 3	500		私	既済			H9-252にて試掘済
230	枝松6丁目95-12	119		私	既済			H9-41にて試掘済
231	祝谷5丁目744	47	43.74	私	試掘			
232	松末2丁目38 5	127		私	既済			H9-327にて試掘済
233	桑原6丁目4708-1外2筆	840	(33.80)	私	試掘			
234	桑原6丁目751-1・2	363	33.84	私	試掘			
235	北久米町4 1、16-2	347	46.00	私	試掘			
236	古三津3丁目878-28	132		私	既済			H8-120にて試掘済
237	北井門町396-10	166		私	既済			H9 384にて試掘済
238	みどりヶ丘300-183・209	198	7.80	私	試掘			
239	小坂3丁目437-1外1筆	990	26.99	私	試掘	溝	弥生土器	本格調査費
240	古三津3丁目878 18・39	186		私	既済			H8 -120にて試掘済
241	東本1丁目113-1	388	34.37	私	試掘			
242	堀江町乙139の一部	354	(103.93)	私	試掘			
243	今在家町437 7	116		私	既済			H10-91にて試掘済
244	南江戸5丁目1-1	851		私	既済			H5-187にて試掘済
245	水泥町1204外1筆	69	61.03	私	試掘			
246	福音寺町701 5・7・13	352	23.70	私	試掘			
247	安城寺町692-4	195	6.74	私	試掘			
248	道後緑台4-35	78	36.82	私	試掘			
249	北井門町274-5	603	23.00	私	試掘			
250	中村2丁目53-2・3	252		私	既済			H9-137にて試掘済
251	山西町1879 6	123		私	既済			H9 179にて試掘済
252	末伴町603-7	24	40.30	私	試掘			
253	水泥町333-239	262	49.30	私	試掘			
254	(欠番)							
255	北井門町396-5	166		私	既済			H9-384にて試掘済
256	南徳土町乙182 上層遺構	3,588		公				

## 松山市埋蔵文化財調査関係資料

No.8

No	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
257	南梅本町乙107 陸上自衛隊松山駐屯地	4,000		公	試掘			県教育委員会にて試掘
258	福音寺町406-5	143		私	既済			本格調査済 新発見遺跡
259	北井門町	602	23.00	公	立会			
260	廣子町32-1	293	42.96	私	試掘			
261	今在家町444-1	686	29.70	私	試掘			
262	天山町80-5	118	19.95	私	試掘			
263	平井町甲2118-4	140	60.88	私	試掘			
264	山西町152-10	107		私	既済			II10-310にて試掘済
265	西石井町211-14	81	20.80	私	試掘			
266	南久米町482-2	366	33.70	私	試掘			
267	星岡町317-2外1筆	370		私	既済			II9-214にて試掘済
268	北斎院町1068-2	131	7.51	私	試掘			
269	朝美2丁目1135-1	146		私	既済			II9-69にて試掘済
270	船ヶ谷町3-1	269	14.80	私	試掘			
271	南江川6丁目1608-1	223	21.66	私	試掘			
272	平井町甲1612-1・2	432	67.47	私	試掘			
273	船ヶ谷町118-1・3	607		私				
274	東方町682-1	325	59.60	私	試掘			
275	北井門町396-7	173		私	既済			II9-384にて試掘済
276	北久米町477-11	203		私	既済			S63-16にて試掘済
277	道後橋又1212-12外1筆	909	28.20	私	試掘			
278	福音寺町721-13の1部	6	23.10	私	試掘			
279	上野町乙135-21	189		私	既済			本格調査済 土層原遺跡
280	東野4丁目甲556-9	169		私	既済			II7-344にて試掘済
281	平井町708-1	327	76.07	私	試掘			
282	北斎院町455-7・8	212		私	既済			II9-240にて試掘済
283	南江川2丁目637-1外2筆	2,354	13.60	私	試掘			
284	北梅本町甲3271-5	233	78.03	私	試掘			
285	北斎院町464-1	125		私	既済			II9-54にて試掘済
286	桑原1丁目1002外3筆	3,385	(36.90)	私	試掘			
287	鉄砲町7-4	241	25.06	私	試掘			
288	北井門町399-1外7筆	3,484	(21.85)	私	試掘			
289	北井門町396-6	173		私	既済			II9-384にて試掘済
290	桑原5丁目691-1	606	(35.20)	私	試掘			
291	南上岡町156	607	38.93	私	試掘			
292	南江川5丁目553-1	867	13.90	私	試掘			
293	西石井町48-4	113	21.40	私	試掘			
294	南江川5丁目3-26	192	13.20	私	試掘			
295	北斎院町1250-13	10		私	既済			II6-180にて試掘済
296	南久米町665-48	82		私	既済			II6-230にて試掘済

## 松山市埋蔵文化財調査関係資料

No. 9

No	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
297	祝谷2丁目190-6外1筆	239		私	既済			H9-145にて試掘済
298	天山町49-2・4	207	20.48	私	試掘			
299	久米窪田町845-1	404	47.57	私	試掘			
300	表山5丁目31-45	274	34.60	私	試掘			
301	山西町851-1	775		私	既済			H8-161にて試掘済
302	久米窪田町1119-4	605	43.40	私	試掘			
303	古三津4丁目45-1外14筆	2,190	(29.00)	私	立会			
304	山西町1380-1外2筆 別所町乙10-1外1筆	1,408	(44.15)	私	立会			
305	山西町1411	202	44.90	私	立会			
306	福音寺町713-9	136		私	既済			H5-41にて試掘済
307	祝谷東町	237		公				
308	久米窪田町897-9	232		私	既済			H9-122にて試掘済
309	北梅本町甲3233	664		私				
310	水尻町1091-1外1筆	525	62.90	私	試掘			
311	南江戸2丁目665-3	102	14.10	私	試掘			
312	南土居町415-3	204		私	既済			H10-67にて試掘済
313	辻町219-2	258	14.73	私	試掘			
314	山田町797	624		私				申請取り下げ
315	兼畑生町760-3外4筆	2,965	4.20	公	立会			
316	祝谷2丁目乙633-21・23	241		私	既済			H8-283にて試掘済
317	道後南市6-25	262	31.88	私	試掘			
318	北斎院町235-5	146		私	既済			H9-186にて試掘済
319	東野4丁目甲556-8	162		私	既済			H7-344にて試掘済
320	久米窪田町1131-1	523		私	既済			H10-76にて試掘済
321	今在家町191-8	141		私	既済			H8-224にて試掘済
322	南久米町558-1	714		私	既済			本橋西土溝 南久米丹敷り遺跡
323	北井門町280-1・2	1,436		私	既済			H10-199にて試掘済
324	鷹子町140-7	170	44.33	私	試掘			
325	辻町70	518	14.40	私	試掘			
326	道後緑内198-3	254	35.53	私	試掘			
327	南梅本町乙91外2筆	1,813	95.20	公	立会			
328	道後湯之町4-30	160	58.30	公	立会			
329	道後一万771-15	121	31.60	私	試掘			
330	山越2丁目8-3	86	17.26	私	試掘			
331	北井門町396-9	201		私	既済			H9-384にて試掘済
332	北斎院町464-10	160		私	既済			H9-54にて試掘済
333	太山寺町乙147	205		公				
334	畑寺町1、鉾田池	3,500		公				
335	南高井町1606-13	136	36.19	私	試掘			
336	福音寺町713-1	133		私	既済			H5-41にて試掘済

## 松山市埋蔵文化財調査関係資料

No.10

No	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
337	道後緑台195 2・3	259	36.10	私	試掘			
338	福音寺町690-8	136		私	既済			H8-392にて試掘済
339	道後喜多町1009-15	104	34.79	私	試掘			
340	別府町432-11	165	4.45	私	試掘			
341	福音寺町572	890	24.70	私	試掘			
342	聖生山岡3丁目473-1	507		私	既済			H10-71にて試掘済
343	南江戸3丁目815 3外1筆	996	13.07	私	試掘			
344	道後緑台362-11	220	39.70	私	試掘			
345	福音寺町528	371	27.35	私	試掘			
346	末住町539-2	165		私	既済			H6-159にて試掘済
347	山越2丁目6-2	188	18.32	私	試掘			
348	北井門町396-12	155		私	既済			H9-384にて試掘済
349	末木町1丁目H3 35	5		私	既済			H9-113にて試掘済
350	北斎院町464-8	145		私	既済			H9-5Aにて試掘済
351	東石井町545-3	132		私	既済			H8-301にて試掘済
352	東石井町545 4	135		私	既済			H8-301にて試掘済
353	東石井町545-6	128		私	既済			H8-301にて試掘済
354	東石井町545-7	130		私	既済			H8-301にて試掘済
355	福音寺町411 11	116		私	既済			本館調査済 跡遺し遺跡
356	福音寺町411-16	126		私	既済			本館調査済 跡遺し遺跡
357	福音寺町411-17	116		私	既済			本館調査済 跡遺し遺跡
358	福音寺町411-18	116		私	既済			本館調査済 跡遺し遺跡
359	福音寺町411-20	122		私	既済			本館調査済 跡遺し遺跡
360	福音寺町411-28	131		私	既済			本館調査済 跡遺し遺跡
361	末住町1155 -4	128		私	未			市教育委員会にて処理
362	南江戸4丁目951 1	394	12.20	私	試掘			
363	松末2丁目6-23	236	25.90	私	試掘			
364	福音寺町558 2・3・5	264	25.16	私	試掘			
365	道後一万9-32	250	31.56	私	試掘			
366	森原1・6丁目	306	(35.06)	公	立会			
367	祝谷5丁目	364	37.60	公	立会			
368	吉藤5丁目乙137-2	273	29.90	私	試掘			
369	西石井町26-1	1,145	21.40	私	試掘			
370	末住町466-1、467-2	303	39.50	私	試掘			
371	南江戸5丁目1418	94	14.10	私	試掘			
372	北斎院町230 1	319	8.70	私	試掘			
373	南久米町480-1	245	34.04	私	試掘			
374	西長戸町584-1外3筆	125	11.18	私	試掘			
375	山越1丁目289 13	101	19.40	私	試掘			
376	久米窪田町872-4・5	718		私	既済			H10 166にて試掘済

## 松山市埋蔵文化財調査関係資料

No.11

No	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
377	水尻町333-53		232	49.20	私	試掘		
378	南久米町690-6		211	39.90	私	試掘		
379	柳味4丁目213-10		116		私	既済		本格調査済 柳味4丁目遺跡3次調査
380	南江5丁目1313-155筆		864	(14.40)	私	試掘	柱穴、溝	本格調査済 南江5丁目遺跡 H8-44にて試掘済
381	桑原6丁目724-5		147		私	既済		
382	桑原1丁目1008-1・7		478	36.30	私	試掘		
383	大山寺町1625 2・3・4		542	19.66	私	試掘		
384	桑原1丁目801-5・9・10		379	36.00	私	試掘		
385	桑原6丁目724-15		137		私	既済		H8-44にて試掘済
386	平井町甲844外5筆		4,212	(72.80)	私	試掘	土坑、柱穴	縄文・弥生土器 本格調査在要
387	今在家町34-1		523	31.90	私	試掘		
388	南久米町468-1		790	34.30	私	試掘	柱穴、溝	須磨器 本格調査在要
389	小坂5丁目366、367-1		2,049	(22.50)	私	試掘		
390	谷町甲262-1、246-3		165	16.29	私	試掘		
391	谷町甲13-11		232	15.96	私	試掘		
392	道後一丁目10-16		212	34.42	私	試掘		
393	津吉町91 2		236	75.71	私	試掘		
394	西長戸町411先-637-1先		600	(10.95)	私	立会		
395	小坂3丁目429-1		540	26.76	私	試掘		
396	立花6丁目331-4		186		私	立会		市教育委員会にて立会
397	山西町152-11		108		私	既済		H10-310にて試掘済
398	北久米町972-1外3筆		1,202		私	既済		H9-54にて試掘済
399	米住町、久米窪田町		749	(41.85)	私	立会		
400	安城寺町592-1外6筆		6,185		私	既済		本格調査済 安城寺町遺跡3次調査
401	南江戸3丁目815 4		2,069		私	既済		本格調査済 古畑コウラ遺跡4次調査
402	小坂2丁目472-14		131		私	既済		本格調査済 小坂七ノ坪遺跡2次調査
403	北久米町589-7		156	32.80	私	試掘		
404	古三津3丁目878 31		132		私	既済		H8-120にて試掘済
405	古三津3丁目878-30		132		私	既済		H8-120にて試掘済
406	山越3丁目乙490外2筆		540	(105.85)	公	試掘		
407	祝谷2丁目10-35		235		私	既済		H8-458にて試掘済
408	桑原4丁目3-34		89	33.98	私	試掘		
409	小坂2丁目472-10		169		私	既済		本格調査済 小坂七ノ坪遺跡2次調査
410	小坂2丁目472 13		101		私	既済		本格調査済 小坂七ノ坪遺跡2次調査
411	みどりヶ丘300-173		106	7.92	私	試掘		
412	山越1丁目21-8		182	18.30	私	試掘		
413	米住町918		253	36.10	私	試掘		
414	道後町2丁目		5	36.91	公	立会		
415	祝谷2丁目乙633-24		155		私	既済		H8-283にて試掘済
416	道後北代1299-6		141	33.40	私	試掘		

## 松山市埋蔵文化財調査関係資料

No.12

No.	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
417	今在家町444-4	212		私	既済			H10-261にて試掘済
418	末住町244 2の一部	7	40.90	私	試掘			
419	山越3丁目913	436	26.00	私	試掘			
420	高砂町2丁目1-2	464	22.60	私	立会			
421	南久米町736 1	175	39.40	私	試掘			
422	鷹子町32-1	289		私	既済			H10-260にて試掘済
423	中村1丁目58-2	171	28.94	私	試掘			
424	古三津3丁目988-2	370	9.36	私	試掘			
425	福音寺町713-12	165		私	既済			H5-41にて試掘済
426	朝生田町2丁目275-1	151	19.01	私	試掘			
427	古三津3丁目878-26	172		私	既済			H8-120にて試掘済
428	朝生田町3丁目410	671	18.80	私	試掘			
429	平井町甲136	636	81.85	私	試掘			
430	北斎院町426 5	192	9.30	私	試掘			
431	桑原6丁目724-7	126		私	既済			H8-44にて試掘済
432	桑原6丁目724-13	113		私	既済			H8-44にて試掘済
433	桑原6丁目724-14	139		私	既済			H8-44にて試掘済
434	平井町甲2169-17	339	60.00	私	試掘			
435	桑原6丁目528-1	275	33.20	私	試掘			
436	平井町甲1234-35・36	177	71.50	私	試掘			
437	桑原5丁目563 6	351	34.80	私	試掘			
438	安城寺町384-8	104	8.15	私	試掘			
439	南江14丁目3-50	8		私	既済			H5-169にて試掘済
440	樺味4丁目213 4	124		私	既済			本府新築時 標高内反照標高5次調査 本格調査要
441	辻町44 1	1,236	14.75	公	試掘	柱穴、包含層	土器類、銅器類	
442	北梅本町乙94	649	109.43	私	試掘			
443	来住町861、862、893	990		私				
444	北井門町255-7	120		私	既済			H8-331にて試掘済
445	久米窪田町1143-1・2	427		私	既済			H3-34にて試掘済
446	福音寺町713-14	231		私	既済			H5-41にて試掘済
447	太山寺町1245-3	182	2.76	私	試掘			
448	中村2丁目276 3	162	26.90	私	試掘			
449	松松6丁目16-16	336	26.79	私	試掘			
450	小坂4丁目26-2	691	26.80	私	試掘			
451	高砂町2丁目2 4	127	22.20	私	試掘			
452	祝台5丁目4720-2・3・5	326		私	既済			H10-58にて試掘済
453	東山町4031-1・2	452	6.04	私	試掘			
454	北久米町508 1	238	32.30	私	試掘			
455	松米2丁目122-9・10・16	169	25.31	私	試掘			
456	南江14丁目1251 3	218	11.20	私	試掘			

## 松山市埋蔵文化財調査関係資料

No.13

No.	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺物	備考
457	南江戸3丁目825-1外1筆	3,248	13.03	私	試掘			
458	久米窪田町1137	809		私				
459	大山寺町甲402-5	498	4.58	私	試掘			
460	枝松6丁目95-6	137		私	既済			H9-41にて試掘済
461	福音寺町407 1・2・3	367		私				
462	福音寺町423-1	572	29.10	私	試掘	竪穴住居址	土器類、瓦器類	本格調査要
463	南土居町415-2	186		私	既済			H10-67にて試掘済
464	鉄砲町7-4	240		私	既済			H10-287にて試掘済
465	南江戸2丁目637-6外3筆	992		私	既済			H10-283にて試掘済
466	桑原1丁目793-4	476		私	既済			H10-78にて試掘済
467	小坂4丁目386-2・3	472	24.00	私	試掘			
468	今在家町300-1	284	31.10	私	試掘			
469	福音寺町535 1・2	328	(22.67)	私	試掘			
470	樽味4丁目213-15	138		私	既済			本格調査時 樽味町反地遺跡5次調査
471	祝谷3丁目193-1・2	474	36.80	私	試掘			
472	来住町523 1・5	694		私	既済			H3-11,117-113Cにて試掘済
473	東石井町617-7	182	24.80	私	試掘			
474	南江戸4丁目948-1	166	13.03	私	試掘			
475	小坂5丁目314-1	129	24.10	私	試掘			
476	西石井町181-2	172	21.43	私	試掘			
477	樽味4丁目213-3	152		私	既済			本格調査時 樽味町反地遺跡5次調査
478	森松町901-3	298	34.90	私	試掘			
479	北斎院町651-2	322	7.19	私	試掘			
480	古三津3丁目928-70	187		私				
481	南久米町665-40	255	40.77	私	試掘			
482	来住町989-1先~845先	569		公	立会			市教育委員会にて立会

表2 平成10年度 松山市埋蔵文化財本格調査一覧

No	選 跡 名	所 在 地	概 約 的 時 代	主 要 遺 構、遺 物 等	対 象 面 積 (㎡)	展 望 期 間	No
334	大瀬遺跡3次調査地	太山寺町333-1	古墳・中世	彫穴住居址・掘立柱建物址・溝・土坑・土師・須恵・石器	34,159	H10.4.1~H10.9.30	334
335	北海本太尺寺遺跡	北海本町甲3427外	近世~現代	土坑・柱穴・溝・石列・弥生・須恵・陶磁器・石鏡	4,575	H10.4.1~H10.9.30	335
336	船ヶ谷遺跡3次調査地	安城町甲592-1外6甲	縄文・中世	掘立柱建物址・溝・井戸・土坑・縄文・土師・陶磁器	5,720	H10.4.1~H10.8.31	336
337	松山水字橋内遺跡5次調査地	文京町4-2	古墳~中世	溝・溝跡・土坑・弥生・土師・須恵・石器	315	H10.4.3~H10.6.30	337
338	米住町遺跡8次調査地	米住町243,242-1の1部	弥生~中世	彫穴住居址・掘立柱建物址・溝・土坑・土師・須恵・瓦器・石鏡	1,272	H10.4.16~H10.7.17	338
339	樽味四反地遺跡6次調査地	樽味1丁目230、231-2	縄文・古墳	彫穴住居址・掘立柱建物址・溝・土坑・土師・須恵・玉環	999	H10.5.29~H10.12.25	339
340	樽味立高遺跡2次調査地	樽味2丁目59	弥生・古墳・近世	掘立柱建物址・土坑・溝・弥生・須恵・土師・陶磁器	292.49	H10.7.22~H10.9.1	340
341	道後今井遺跡12次調査地	道後今井998-15の1部	中墳~中世	彫穴住居址・溝・柱穴・土師・須恵・鉄器	364.2	H10.7.24~H10.10.6	341
342	五郎兵衛宮7号墳	鷹子町乙404-5	古墳	491	H10.8.18~調査中		342
343	小坂七ノ坪遺跡2次調査地	小坂2丁目472-6	緊急 弥生~古代	溝・土坑・弥生・須恵・土師	781.29	H10.9.1~H10.10.31	343
344	北斎記地内遺跡4次調査地	北斎記町221-1	中世	掘立柱建物址・溝・土坑・土師・井戸・土師・瓦器・陶磁器	976	H10.10.1~H11.1.29	344
345	久米才井行遺跡4次調査地	南久米町485-1・3・4	弥生~中世	掘立柱建物址・井戸・土坑・溝跡・弥生・須恵・土師・石鏡	1,095	H10.10.1~H10.11.30	345
346	筋違M遺跡	福音寺町452-1・2	国書 弥生~中世	掘立柱建物址・溝・土坑・弥生・土師・須恵・陶磁器	549	H10.12.1~H11.3.19	346
347	福徳家天神山古墳	南徳大町甲417外	古墳	16,121.04	H10.12.1~調査中		347
348	久米高畑遺跡41次調査地	南久米町757	古墳・古代	彫穴住居址・掘立柱建物址・土師・須恵・内面鏡・瓦	714	H10.12.20~H11.3.31	348
349	米住米ヶ谷25次調査地	南久米町729-1	古墳	区画溝・柱穴・弥生・土師	5	H11.1.6~H11.2.15	349
350	両江戸寄谷遺跡	南江戸6丁目1313 1965並	緊急 古墳・中世	彫穴住居址・掘立柱建物址・溝・竇泉・土師・須恵	864.22	H11.2.16~H11.3.12	350



平成10年度松山市埋蔵文化財本格調査位置図



### III 平成10年度

#### 保 存 処 理

## 保存処理事業 I

保存処理室では主に木製品の保存処理(PEG含浸処理)、鉄製品の保存処理(減圧樹脂含浸)を行っており、必要に応じて現場に出向き、遺物の取り上げ、土層の剥ぎ取り転写の作業も行っている。

### 1. 木製品の処理

平成9年6月17日より250型処理水槽にて含浸処理を行っていた木製品が平成10年10月21日に処理が完了し、処理水槽より取り上げた。処理の結果は良好である。以下処理を行った遺跡名と遺物点数を下表に記す。

表1 平成10年度 木製品保存処理遺跡名一覧

No	遺跡名	遺物点数	刊行物	備考
223	来住院寺18次調査地	3	松山市文化財調査報告書第44集	古代:木鏝
245	久米窪田森元遺跡3次調査地	47	松山市文化財調査報告書第44集	古代:木製品
252	古瀬遺跡第10次調査地	3	松山市文化財調査報告書第47集	中世:竹カゴ
253	辻町遺跡2次調査地	5	松山市文化財調査報告書第51集	中世:板材
274	来住院寺遺跡24次調査地	50	未報告	中世:桶
295	釜ノ口遺跡8次調査地	9	松山市文化財調査報告書第60集	弥生:柱材・礎板
335	北梅本大尺寺遺跡	1	未報告	近現代:竹カゴ
	松山城二ノ丸跡	23	未報告	近世:井戸桶

### 2. 鉄製品の保存処理

前処理(脱水・脱塩作業)を行っていた鉄製品は順次クリーニング(付着しているゴミ・土埃・サビ等の除去)、減圧樹脂含浸を行っている。また処理の終了した鉄器は収納システム(三菱ガス科学・R Pシステム)により収納後特別収蔵庫に保管している。以下処理を行った遺跡名と遺物点数を下表に記す。

表2 平成10年度 鉄製品保存処理遺跡名一覧

No	遺跡名	点数	作業工程	刊行物
41	津田中学校構内遺跡1次調査地	4	土の除去のみ	未報告(整理中)
59	東山古墳群1次調査地	169	再処理・収蔵保管	松山市文化財調査報告書第15集
60	東山古墳群2次調査地	31	// //	//
62	鶴が峠遺跡	105	処型準備中	未報告
166	福音小学校構内遺跡	41	脱塩洗浄浄浸漬中	未報告分(古墳時代~中・近世)
241	北久米浄蓮寺遺跡3次調査地	19	//	松山市文化財調査報告書第42集
244	松山大学構内遺跡3次調査地	13	//	// 第49集
258	米本遺跡4次調査地	21	収蔵保管	// 第54・53集
266	大峰ヶ台遺跡9次調査地	20	脱塩洗浄浄浸漬中	// 第62集
285	東野お茶屋台遺跡5次調査地	8	//	未報告(整理中)

## 3. 遺構・遺物の取り上げ

遺物の取り上げは平成10年8月27日船ヶ谷遺跡3次調査地にて中世の井戸から水溜部の曲物の取り上げを行った。曲物は三个体を積み上げた構造で成る。曲物の遺存状況を観察した結果取り上げは中・下段を主体として実施するよう、調査担当者と検討した。

曲物中・下段は付着していた土を取り除いた段階で、比較的材に硬さがあることがわかった。曲物中段は内面にダンボール紙をあてがった後に、内外面を角材で挟み込んで上下を固定した。曲物下段の内面は補強材が入っているため、外面に幅広いビニールテープを幾重か巻き付けて補強した。これらの保護を行った後に中・下段は同時に取り上げた。

今回の取り上げは簡単な方法を用いたが、現場からの搬出・移動運搬に充分耐えられるものであった。

## 4. 土層の剥ぎ取り転写

平成10年12月16・17日に樽味四反地遺跡6次調査地の大型独立柱建物の柱穴断面の剥ぎ取りを行った。作業工程は転写面にスプレーガンを用いてエポキシ系合成樹脂を吹き付けた。その後ガーゼ（樹脂の補強）で裏打ちを行った。この裏打ち工程は2回繰り返した。剥ぎ取りは翌日17日に行いセンターへ搬入した。搬入後転写面の水洗い、仕上げの整形を行い、ベニヤ板で作成したパネルに張り付けた。作成した土層転写パネルは平成10年度発掘速報展にて展示・公開した。

## 5. 人骨・獣骨の処理

処理室へは人骨・獣骨とも大部分のものが、土とともに出土した状態で切り離されて搬入される。処理室ではこの余分な土を竹ベラ・竹串・針先・ピンセットなどを用いて徐々に取り除いて骨の取り出しを行っている。もろい状態のものはアクリル系合成樹脂を塗布し、乾燥、硬化させてから少しずつ土を取り除き、現れた部分にまた樹脂を塗る。この繰り返しを行って取り出した骨は、最後に樹脂溶液に浸し漬けて全体（内部まで）を強化する。以下処理を行った遺跡名と種類を表に記す。

表3 平成10年度 人骨・獣骨保存処理遺跡名一覧

No.	遺跡名	出土遺構	種類	部位	刊行物
41	津山中学校構内遺跡1次調査地	B溝	人骨	不明	未報告（整理中）
112	古瀬ゴウラ遺跡3次調査地		牛か馬	歯	〃
175	古瀬遺跡5次調査地	S K 6	人骨	頸部	〃
244	松山大学構内遺跡3次調査地	S B 4	牛	下顎	松山市文化財調査報告書第49集
283	古瀬ゴウラ遺跡5次調査地	A区B4	人骨	足部	未報告
		A区B1	人骨	頸部	
344	宮前川遺跡	1区S B 1	骨角器	簞	松山市文化財調査報告書第18集
		1区S B 5	獣骨	不明	
		3区S B 4	鹿	角	
344	北斎院地内4次調査地	土坑墓1	人骨	腕部・足部	未報告（整理中）
		土坑墓2	人骨	不明	

## 6. 平成10年度調査出土金属製品・木製品・動物遺骸

以下の表に平成10年度の調査により、金属製品・木製品・植物遺体・動物遺骸の出土した遺跡、種類、点数を記す。

表 4 平成10年度 調査出土金属製品・木製品・動植物遺骸体一覧

No	遺跡名	種類	点数	内 容
334	大洞遺跡 3 次調査地	金属製品	1	鉄製品 (革金具)
		木製品	8	柱材・杭材・その他
336	船ヶ谷遺跡 3 次調査地	木製品	1	井戸木留部動物 (処理中)
344	北斎院地内遺跡 4 次調査地	金属製品	17	鉄製品 (棒・釘・その他) 銅製品 1 点 (鍍貨)
		木製品	6	柱材
		動物遺骸体	3	人骨 2 点 (処理済)・馬白歯 (処理済)
350	南江戸客谷遺跡	金属製品	21	鉄製品 (釘・その他)
339	樽味四反地遺跡 6 次調査地	金属製品	4	鉄製品 (鏝・その他)
		植物遺体	14	竹片 1 点・種子
		動物遺骸体	26	獣骨小片・魚骨小片・貝殻小片……土洗浄中
338	米住町遺跡 8 次調査地	金属製品	4	鉄製品 (鏝・その他)
348	久米高畑遺跡 41 次調査地	金属製品	1	金銅製品 (器種不明)
335	北梅本太尺寺遺跡	金属製品	3	鉄製品 (庖丁・その他)
		木製品	1	竹製カゴ (処理済)



写真 1 釜ノ口遺跡 8 次調査地出土柱材 (処理後)



写真 2 釜ノ口遺跡 8 次調査地出土礎板 (処理後)



写真 3 東本遺跡 4 次調査地出土鉄鏝 (処理前)



写真 4 東本遺跡 4 次調査地出土鉄鏝 (処理後)



写真5 東本遺跡4次調査地出土刀子(処理前)



写真6 東本遺跡4次調査地出土刀子(処理後)



写真7 松山大学構内遺跡3次調査地出土牛骨(処理前)

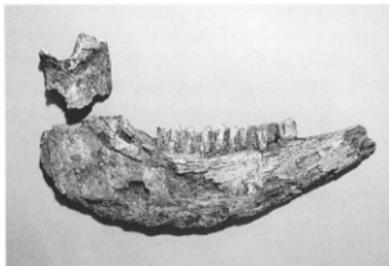


写真8 松山大学構内遺跡3次調査地出土牛骨(処理後)



写真9 北斎院地内遺跡4次調査地出土人骨(処理前)

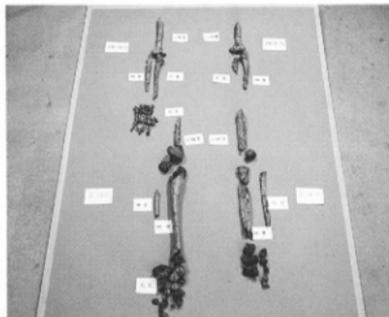


写真10 北斎院地内遺跡4次調査地出土人骨(処理後)



写真11 遺物取り上げ作業(船ヶ谷遺跡3次調査地にて)



写真12 土層剥ぎ取り作業(樺味西反地遺跡6次調査地にて)

## 保存処理事業Ⅱ

当センターでは、金属製品のうち、重要遺物については十分な保存処理や科学分析等を行うため専門機関に業務を委託している。本年度は青銅鏡1点を外部委託した。

### 1. 青銅鏡

平成9年4月、松山市在住の柳原壱氏から当家所蔵の青銅鏡2点の寄贈を受けた。青銅鏡は、市内出土（詳細不明）の重圓文鏡1点と松山市溝辺町横谷古墳出土の五銖鏡1点（欠損品）である。重圓文鏡は、一部が欠落するが、完形鏡で出土したものとみられる。なお、鏡面・鏡背には赤色顔料が付着している。鏡は錆化が進行し、保存処理が急務であり、平成10年度に保存処理と科学分析を京都造形芸術大学に委託した。

資料：市内出土の重圓文鏡（平成9年度寄贈品）

内容：保存処理と成分の科学分析

委託：京都造形芸術大学 文化財科学研究センター



鏡背



鏡面

写真13 松山市内出土の青銅鏡

IV 平成10年度

啓蒙普及事業

## 平成10年度の啓蒙普及事業

当埋蔵文化財センターは、松山市内における埋蔵文化財の発掘調査・研究とともに、出土遺物や記録資料などを収蔵し、保管している。発掘調査終了後は、遺跡の発掘調査報告書・パンフレットなどを作成し、随時現地説明会などを開催することにより、広く一般に公開している。

また附属の考古館・文化財情報館は地域文化の発展・向上並びに調査研究活動の振興を図ることを目的として設置されたものであり、展示会や一般対象の遺跡めぐり・講演会、小学生対象の体験学習セミナーを開催するなど、市民一人ひとりの生涯学習を援助しながら、埋蔵文化財保護思想の啓蒙普及に努めている。

### 1. 展示活動

考古館の常設展は、「海を媒体とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた人々の姿」を解明し、「見る」「聞く」「考える」を展示の基本コンセプトとしている。また立体的な展示を心掛けている。展示品は、松山平野で出土した考古資料約8,200点である。

#### ①松山市考古館活動報告写真展

考古館活動報告写真展「各駅停車、古代松山浪漫の旅II」は、市民の方々に一年間の館活動を報告するとともに、広く埋蔵文化財に対して目を向けてもらうため、各種イベントの様子がわかる写真パネルを松山市庁舎本館1階ロビーにて展示したものである。

平成10年度は、考古学入門講座「チャレンジ考古学III」の講座風景など9点の写真パネルを展示した。

#### ②発掘調査速報展

発掘調査速報展「わかし・昔のまつやまを掘る」は、松山市内で相次いで発見された重要な遺跡・遺物を速報的に紹介したり、また新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡について、写真やイラスト・図面を交えながら紹介するものである。

平成10年度は、前年度に発掘調査された遺跡のなかで、筋違L遺跡を含む23遺跡を取り上げその出土遺物171点を展示した。

#### ③夏休み親子体験学習セミナー作品展

セミナー作品展「みんなで作った！古代ファッションショーII」は、小学生とその保護者が体験学習セミナーで制作した作品（滑石製勾玉と古代風衣装）を展示したものである。

#### ④特別展

特別展は、ひとつのテーマのもとに一定期間内で系統的に展示を行うものである。平成10年度は「魂のゆくえ〜検証、古代瀬戸内の精神文化〜」と題して出土文化財から読みとれる古代人の精神社会を検証し、展示を展開した。

#### ⑤新収蔵品展

この展示は従来、同時期に開催していた「企画展」に代わるもので、考古館に新たに寄贈・寄託された考古資



写真1 夏休み親子体験学習セミナー作品展「みんなで作った！古代ファッションショーII」

料を一定期間、一般に公開するものである。平成10年度は「竹本定義コレクション展～伊豫考古学界の先人たち vol.1～」と題して開催した。

表1 展示活動一覧

テーマ	会 期	会 場	入館者数
考古館活動報告写真展 「各駅停車、古代松山浪漫の旅Ⅱ」	平成10年4月9日(木) ～4月15日(木)	市庁舎本館 1階ロビー	—
発掘調査速報展 「むかし・昔のまつやまを語る」	平成10年4月25日(土) ～6月14日(日)	特別展示室	3,659
夏休み親子体験学習セミナー作品展 「みんなで作った！古代ファッションショーⅡ」	平成10年8月8日(日) ～8月23日(日)	特別展示室	359
特別展 「魂のゆくえ～検証、古代瀬戸内の精神文化～」	平成10年10月17日(土) ～11月23日(日)	特別展示室	2,608
新収蔵品展 「竹本定義コレクション展 ～伊豫考古学界の先人たち vol.1～」	平成11年2月27日(土) ～3月28日(日)	特別展示室	1,139

## 2. 教育普及活動

教育普及活動としては、職員の資質向上を目的とした調査研究会と、一般市民を対象にした埋蔵文化財保護思想の啓蒙を目的とした講演会・夏休み親子体験学習セミナー・講座などがある。

### ①調査研究会

発掘現場における調査方法や報告書作成のための各分野での第一人者を招聘し、助言を頂き、職員  
の資質の向上をめざしている。

### ②講 演 会

平成10年度は、発掘調査報告会・特別展記念講演会・新収蔵品展記念ミニフォーラムを開催した。  
発掘調査報告会「むかし・昔のまつやまを語る」は、前述の発掘調査速報展開催期間中に3名の発掘  
調査担当者による報告が行われた。

次に特別展記念講演会は、特別展開催を記念して開催された。特に出土文化財からみえる古代の精  
神社会（墓制、副葬品、装飾品）を多角度に究明した。

新収蔵品展記念ミニフォーラムは、「愛媛の石器を語る」というテーマで愛媛県埋蔵文化財調査セ  
ンターの多田仁氏に県全域の石器の動向について、また松山平野における弥生時代の石器研究を当埋  
蔵文化財センター加島次郎調査員に語っていただいた。



写真2 特別展記念講演会①  
(講師は間壁霞子先生)



写真3 特別展記念講演会②  
(講師は木下尚子先生)

表2 教育普及活動一覧(1)

(敬称略)

テ ー マ	日 時	会 場	講 師	聴講者数
発掘調査報告会 「むかし・昔のまつやまを語る」	平成10年4月25日(土)	講堂	当埋文センター調査係長 田城 武志 当埋文センター調査員 山之内志郎 # 高尾 和長 # 栗田 茂敏	180人
特別展記念講演会	平成10年10月18日(日)	講堂	神戸女子大学文学部教授 間壁 恵子 徳島大学総合科学部助教授 北條 芳隆	150人
	平成10年10月24日(土)	講堂	土井雅弘(彫刻・ミュージアム) 松下 孝幸 熊本大学文学部教授 木下 尚子	190人
新収蔵品展記念ミニフォーラム	平成11年3月13日(土)	講堂	堂橋源理文センター調査員 多田 仁 当埋文センター調査員 加島 次郎	60人

## ③夏休み親子体験学習セミナー「みんなで作ろう/古代のアクセサリー/」

第8回目を迎えた平成10年度夏休み親子体験学習セミナーは、子供たちの自由な発想で滑石製の勾玉や古代風呂衣装を製作体験することで古代人の苦勞や知恵を学ぼうというもので、子供たちの社会科学学習の一助とするだけではなく、自主性と創造力を養うことをねらいとしている。

表3 教育普及活動一覧(2)

テ ー マ	日 時	会 場	参加者数
「みんなで作ろう/古代のアクセサリー/」	平成10年7月23日(木)	講 堂	42人

## ④現地説明会

平成10年度は、合計5ヶ所の遺跡において現地説明会を開催した。こうした遺跡の見学を通してより一層埋蔵文化財への興味・関心を持ってもらうため、開催するものである。

中でも榊味四反地遺跡6次調査や来住庵寺周辺の久米高畑遺跡などは、多く市民が見学に訪れた。

表4 教育普及活動一覧(3)

遺 跡 名	日 時	内 容	見学者数
船ヶ谷遺跡3次調査地	平成10年8月1日(土) 10:30~11:30	縄文時代~中世の遺構(掘立柱建物跡・溝・櫛列・井戸等)、遺物(縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・貿易陶磁器等)	120人
大洞遺跡3次調査地	平成10年9月12日(土) 10:00~12:00	古墳時代~中世の遺構(竪穴式住居址・土坑・水田等)、遺物(土師器・須恵器・埴輪等)	150人
榊味四反地遺跡6次調査地	第1回 平成10年10月17日(土) 13:00~15:00	弥生~古墳時代の遺構(溝・竪穴式住居址等)、遺物(弥生土器・土師器・須恵器・勾玉等)	80人
	第2回 平成10年12月19日(土) 10:00~12:00	大型掘立柱建物址、溝(壕)	150人
来住庵寺25次調査地	平成11年2月27日(土) 10:00~12:00	溝、柱穴等	70人
久米高畑遺跡41次調査地	#	古墳時代~古代の遺構(竪穴式住居址・掘立柱建物址・土坑等)、遺物(瓦・円面硯等)	#

## ⑤まいぶん映画会

まいぶん映画会は、一般観覧者を対象としており、第2・4土曜日及び毎週日曜日・祝祭日の午前10時・午後1時・3時の3回上映している。上映する映画の内容は、考古学関係のわかりやすいアニメーションから専門的なものまで幅広い。

## ⑥博物館実習

平成6年度より博物館学芸員資格の取得を希望する人のための博物館実習を実施している。10年度は、8月18日～8月29日の日程で、愛媛大学生7名、奈良女子大学生1名の合計8名を受け入れた。展示実習（常設展示解説・来館者案内）、写真実習（機材の取り扱い・撮影）、保存処理（遺構の切り取り）などのカリキュラムを実施した。



写真4 博物館実習風景

## ⑦考古学入門講座「チャレンジ考古学Ⅲ」

一般市民向けの「わかりやすい、やさしい考古学」を目指し、平成8年度に開講した。平成10年度は、2名の外部講師を招聘し、講座内容を松山平野を中心に県内全域まで拡大した。また発掘調査現場見学等を取り入れることで、よりグローバルな展開を模索している。



写真5 チャレンジ考古学Ⅲ 発掘現場見学風景

写真6 チャレンジ考古学Ⅲ 講座風景  
(講師は柴田昌見調査員)

表5 教育普及活動一覧(4)

回	テーマ	日時	会場	講師	受講者数
1	弥生時代(分銅形土製品)	平成10年8月29日(出)	講堂	当センター調査員 山之内志郎	57人
2	発掘現場見学	平成10年9月12日(出)	大洲通商	当センター調査員 栗田 茂敏 吉岡 和哉	47人
3	弥生時代 (松山平野の石器)	平成10年10月3日(出)	講堂	当センター調査員 加藤 次郎	46人
4	弥生時代(東予事情)	平成10年11月7日(出)	講堂	健愛媛原理文センター調査員 柴田 昌見氏	43人
5	弥生時代(青銅器)	平成10年11月14日(出)	講堂	愛媛大学法文学部講師 吉田 広氏	45人

## 3. 収集・保管活動

## ①埋蔵文化財関連

平成10年度は、昨年度に寄託を受けた松山市久米岡周辺出土の資料の公開・展示を実施するとともに、寄贈・寄託資料の調査、分析、整理を継続する。

## ②その他

平成10年度に松山市農業指導センターより古代ハスの株分けを受けた。この古代ハスは、平成8年1月に、中国大連市の観光訪問団が表敬訪問で松山を訪れた際、大連市観光局長の張宏安氏から、大連市で出土した1千年前のハスの種が松山市に贈呈された。その後、市農業指導センターで育成されてきたものである。平成10年7月、当埋文センターにて2輪開花。



写真7 古代ハス

## 4. 広報・出版活動

広報・出版活動としては、考古館主催の展示会・講演会などを開催する際に、多くの観覧者を募るためにポスターやパンフレットを発刊したり、発掘調査を行った遺跡について、発掘調査報告書を刊行している。研究者はもとより、一般市民においても、これらの出版物を大いに活用していただくことで、埋蔵文化財保護の啓蒙普及に役立つものと思われる。

表6 広報・出版活動一覧(1)

出版物名	発行日	対象	版型・頁	部数
発掘調査速報 案内状	平成10年4月	一般	ハガキ	4,000
# パンフレット	#	#	A4・27頁	600
発掘調査報告会 レジメ	#	聴講者	A4・20頁	180
夏休み親子体験学習セミナー パンフレット	平成10年7月	参加者	A4・8頁	60
# 作品展 ポスター	平成10年8月	一般	A2	20
考古学入門講座 レジメ(1)	平成10年8月	受講生	A4・12頁	70
# # (2)	平成10年9月	#	B4・5頁	70

表7 広報・出版活動一覧(2)

出版物名	発行日	対象	版型・頁	部数
考古学入門講座 レジメ(3)	平成10年10月	受講生	A4・12頁	70
〃 (4)	平成10年11月	〃	A4・12頁	70
〃 (5)	〃	〃	A4・12頁	70
特別展 室内状	平成10年10月	一般	ハガキ	4,000
〃 ポスター	〃	〃	B2	500
〃 リーフレット	〃	〃	A4	5,000
〃 パンフレット	〃	〃	A4・4頁	3,000
〃 図録	〃	〃	A4・28頁	500
〃 記念講演会 レジメ(1)	〃	聴講者	A4・10頁	180
〃 〃 (2)	〃	〃	A4・21頁	180
新収蔵品展 ポスター	平成11年2月	一般	A2	60
〃 リーフレット	〃	〃	A4	500
〃 記念ミニフォーラムレジメ	平成11年3月	聴講者	B4・14頁	100

表8 広報・出版活動一覧(3)

報告書名	発行日	対象	版型・頁	部数
松山市埋蔵文化財調査年報 X (平成9年度)	平成10年9月1日	一般	A4本 文139頁	1,000
松山市文化財調査報告書 第68集 松山入字橋内遺跡Ⅱ - 第4・5次調査-	平成10年9月30日	一般	A4本 文50頁 写真同版 11頁	1,000
松山市文化財調査報告書 第69集 瀬戸風峠遺跡	平成10年9月30日	一般	A4本 文130頁 写真同版 47頁	1,000
松山市文化財調査報告書 第70集 船ヶ谷遺跡 2次調査-	平成11年3月31日	一般	A4本 文84頁 写真同版 16頁	1,000
松山市文化財調査報告書 第71集 岩崎遺跡	平成11年3月31日	一般	A4本 文 84頁 図 版 編 91頁	1,000
松山市文化財調査報告書 第72集 乃万の裏遺跡 - 2次調査地	平成11年3月31日	一般	A4本 文122頁 写真同版 20頁	1,000

## 5. 施設の利用

当センターでは、主催事業だけでなく、考古学関連団体主催の研究会の会場として利用してもらい、広く一般市民にも積極的に参加を呼びかけている。特に、愛媛大学法文学部下條信行教授を代表とした瀬戸内海考古学研究会が奇数月第4土曜日に定期的に開催されている。

表9 施設の利用一覧 瀬戸内海考古学研究会

(敬称略)

回	テーマ	日時	会場	講師
48	瀬戸内海考古学研究会 3周年記念シンポジウム 「なまから秋彦へどのように代わるか」	平成10年5月23日(付)	講堂	愛媛大学教授 大府教育委員会 愛媛大学助教授 下條 信行 瀬戸内住男 村上 恭浩
49	「西部瀬戸内における弥生後 期の藤古彩土器について」	平成10年7月25日(出)	講堂	愛媛大学大学院 松村きを里
50	「伊予の官衙関連遺跡」	平成10年9月26日(出)	講堂	愛媛県埋文センター 〃 谷本 倫郎 柴田 昌晃
52	「宮前川北斎院遺跡の位置づけ」	平成11年1月30日(付)	講堂	愛媛県埋文センター 作田 一耕
53	「伊達における 前期古墳出土二重口縁壺の編年」	平成11年3月27日(出)	講堂	松山事理文センター 小玉要紀子

## 6. 資料の貸出

当センターでは、各博物館や教育委員会主催事業の出土品要望に応えるべく、可能な限りの資料の貸出を行っている。

表10 資料の貸出一覧

貸出資料名	遺跡名	点数	貸出目的(貸出期間)	貸出先
出土遺物写真	祝谷六丁目遺跡	1点	パネル展示 (平成10年4月14日～4月30日)	愛媛県歴史文化博物館
	平井谷1号墳	2点		
貝製旋輪	祝谷六丁目遺跡	2点	展示 (平成10年4月21日～6月23日)	愛媛県歴史文化博物館
ガラス玉	釜ノ口遺跡8次調査	89点		
出土遺物写真 (二重門縁壺)	朝日谷2号墳	1点	写真掲載 (平成10年7月6日～7月20日)	株式会社 世界文化社
発掘現場写真	大洲遺跡1次調査地	3点	写真掲載 (平成10年7月16日～12月31日)	松山市立北中学校PTA
出土遺物写真		5点		
出土遺物(瓦)	米佐藩寺	3点	展示 (平成10年8月6日)	助愛媛県埋文センター
分銅形土製品	福音小学校構内遺跡	1点	写真掲載・展示 (平成10年8月10日～11月30日)	神戸市教育委員会 (神戸市埋文センター)
＃	祝谷六丁場遺跡	2点		
＃	樽味四反地遺跡	1点		
出土遺物写真 (人形写真)	古瀬遺跡7次調査地	1点	パネル展示 (平成10年8月25日～9月18日)	愛媛県歴史文化博物館
分銅形土製品	文京遺跡	3点	写真掲載・展示 (平成10年10月9日～平成11年1月6日)	徳島市立考古資料館
＃	福音小学校構内遺跡	1点		
＃	祝谷アイリ遺跡	2点		
＃	鷺谷遺跡	1点		
出土遺物写真 (犁)	古瀬遺跡	2点	写真掲載 (平成10年11月4日～11月13日)	道前道後平野 農業水利事業所
館内展示写真	館内常設展示	6点	写真掲載 (平成10年11月11日)	㈱ランダム コミュニケーションズ
館内展示写真	館内常設展示	2点	写真掲載 (平成10年11月11日～平成11年4月30日)	関あかね書房 勝カズ企画
館内展示写真	館内常設展示	1点	写真掲載 (平成10年11月17日～12月25日)	南江戸町郵便局
出土遺物写真	朝日谷2号墳	1点	写真掲載・展示 (平成11年2月23日～4月13日)	徳島市立考古資料館
出土遺物 (二倉一歌説)	朝日谷2号墳	1点		

## 7. 職員研修・会議

当センターでは、毎年、奈良国立文化財研究所で実施されている発掘技術者研修をはじめとして、各種研修・行事に参加している。こうした研究や会議に積極的に参加することにより、職員の資質向

上と業務の円滑な推進を図っている。

表11 職員研修・会議一覧

研修・会議名	開催地	日程	参加名数
全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	京都市	平成10年6月11日～6月12日	1名
第10回埋蔵文化財写真技術研究会	奈良市	平成10年7月3日～7月4日	1名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会 コンピューター等研究委員会	高知市	平成10年9月3日～9月4日	1名
四国埋蔵文化財法人実務担当者会	高知市	平成10年9月17日～9月18日	2名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	ひたちなか市	平成10年10月8日～10月9日	2名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	倉吉市	平成10年10月29日～10月30日	3名

表12 平成10年度（平成10年4月1日～平成11年3月31日）入館者一覧

月	開館 日数	一般	児童 生徒	団 体 一般	団 体 児童 生徒	老人	小中高生等 無料入館者	遠征等 無料入館者	入館者 合計	一日平均 入館者
4	25	230	82	26	20	61	491	377	1,287	51
5	27	192	69	33	266	18	1,502	406	2,886	107
6	25	136	15	65	40	38	188	102	584	23
7	27	141	50	27	0	32	49	178	477	18
8	26	167	120	51	25	14	0	263	640	25
9	24	106	18	1	0	197	0	118	440	18
10	27	304	24	119	450	124	421	485	1,927	71
11	24	414	64	254	66	167	286	181	1,432	60
12	23	105	13	0	0	8	0	110	236	10
1	20	66	13	0	0	11	0	100	190	10
2	23	101	15	43	0	14	257	108	538	23
3	26	168	16	83	183	18	0	595	1,063	41
計	297	2,130	499	702	1,050	702	3,594	3,023	11,700	39

## 8. 松山市文化財情報館

松山市文化財情報館は、松山市内で出土した文化財を整理・保管し、その活用を図るとともに市民に開かれた歴史学習の場の提供を行うための施設設備の充実を図り、埋蔵文化財センター及び考古館と一体となって埋蔵文化財保護施設として有機的な活用を図ることを目的としている。

開館日 月～金曜日（祝祭日を除く）

閉館時間 午前9時～午後5時（ただし、入館は午後4時30分まで）

## 松山市埋蔵文化財調査年報 11

---

平成11年9月30日 発行

編 集  
発 行

松 山 市 教 育 委 員 会

〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1  
TEL(089)948-6605

財団法人 松山市生涯学習振興財団

埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6  
TEL(089)923-6363

印 刷

セ キ 株 式 会 社

〒790-8686 松山市湊町7丁目7-1  
TEL(089)945-0111

---

